

令和4年度
(2022年度)

事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)



学校法人巨樹の会

目 次

I 学校法人の概要

1. 基本理念、建学の精神、教育理念、沿革	P	1
2. 基本方針	P	3
3. 教育方針	P	4
4. 教育計画	P	5
5. 設置する学校・学科等	P	7
6. 学生数の状況	P	8
7. 役員及び評議員の概要	P	9
8. 国家試験合格状況	P	10

II 事業の概要

1. 令和4年度事業の概要	P	11
2. 各学校の事業報告			
令和健康科学大学	P	15
福岡看護専門学校	P	31
小倉リハビリテーション学院	P	37
下関看護リハビリテーション学校	P	39
八千代リハビリテーション学院	P	50
福岡和白リハビリテーション学院	P	51
福岡水巻看護助産学校	P	52
武雄看護リハビリテーション学校	P	59

1.学校法人の概要

基本理念

手には**技術**、頭には**知識**、患者様には**愛**を

創設者の蒲池眞澄は、「患者のために医療を行う」という強い思いで、昼夜を問わず救急医療に励んできました。その中で医師のパートナーである看護師の教育を行いたいという熱い思いから看護学校を設立しました。また、患者様の生命を救った後の、日常生活動作の回復を考え、リハビリテーションを重視し、理学療法士、作業療法士の育成のためリハビリテーション学院を開校しました。さらに昨今の多様化する医療に応えうる人材を育成すべく、令和4年4月に看護学部、リハビリテーション学部を備えた「令和健康科学大学」を開学し、助産師教育を含む姉妹校専修学校7校とともに、新たな歴史を刻んでおります。

建学の精神

創設者の信念である「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」を基本理念とし、医療のスペシャリストになりたいという学生の夢の実現のために「人間愛・自己実現」を教育理念として掲げ、人間性豊かで、社会に貢献できる実践能力を身につけた医療の専門職業教育を目指しています。

教育理念

人間愛・自己実現

学校法人巨樹の会の教育理念は「人間愛と自己実現」という人間の根本精神をあげ、一人ひとりの学生が人間愛の精神に基づき、対象を深く理解し、受け入れ、専門的な知識、技術、態度を身につけることができるような人材育成を目指しています。さらに、医療看護分野の専門性の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、自己実現していけるような人を育てています。

教育にかける情熱

学校法人巨樹の会は、創設者である蒲池真澄の「医師のパートナーである看護師の教育を行いたい」という熱い思いから始まりました。さらに、本法人は急速な少子高齢者社会の進展や疾病構造の変化により、在宅分野や予防分野など、リハビリテーションの需要がさらに増大してくる事を鑑み、その中核を担うセラピストの育成にも力を入れています。

知識は、学習の習慣と方法を修得できれば身につけることができます。しかし、医療従事者になりたいという思いは、他者から指導されて身につくものではありません。本当に医療従事者になりたいという思いをもった受験生にきてほしい、これが本法人の創設者の願いです。

本法人では、「人間愛と自己実現」という教育理念のもとで、基礎教育と臨床研修との一貫教育を中核に掲げ、患者様のために実践できる能力を身につけ、社会に貢献できる有能な人材の教育を行っています。

現在、本法人の専門学校7校の卒業生は**16,000人を超え**、看護師・助産師・理学療法士・作業療法士として、全国の医療の第一線で活躍しています。

〔 沿革 〕

平成 2年 4月	学校法人 福岡保健学院 福岡看護専門学校(3年課程)開校
平成 4年 4月	福岡看護専門学校2年課程(夜間定時制)開設
平成16年 4月	小倉リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 下関リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 八千代リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 福岡看護専門学校2年課程(通信制)開設
平成19年 4月	福岡和白リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校
平成20年 4月	福岡看護専門学校水巻校(3年課程)開校
平成22年 4月	下関リハビリテーション学院に看護学科を開設 名称変更:下関看護リハビリテーション学校へ
平成22年 9月	みずまき助産院ひだまりの家を開院
平成23年 4月	武雄看護リハビリテーション学校(看護学科・理学療法学科)開校 福岡看護専門学校水巻校に助産学科を開設 名称変更:福岡水巻看護助産学校へ
令和 2年 4月	学校法人名を「学校法人巨樹の会」へ変更
令和 4年 4月	令和健康科学大学 開学 看護学部 ・看護学科 リハビリテーション学部 ・理学療法学科 ・作業療法学科

2. 基本方針

令和4年度 学校法人巨樹の会 基本方針

I. 学校法人の更なるガバナンス機能の強化

1. 業務の適正を確保するための内部統制システムの実施
2. 中長期計画を策定し事業計画と連動したPCDAサイクルの展開
3. 令和健康科学大学大学院看護学研究科(仮称)設置申請に向けた取り組み

II. 継続事業

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進
2. 学生満足度向上に向けた取り組み
3. ICT環境の運用
4. 退学者抑制の取り組み（進級率・卒業率90%以上の実現）
5. 国家試験合格率100%実現に向けた取り組み
6. 定員充足への取り組み
7. 地域連携の充実にむけた社会貢献の推進
8. 業務効率化の促進

III. その他

1. 働きやすい職場環境づくりの取り組み
 - 1)メンタルヘルスケア体制を充実させ、教職員に対する心のケアの充実及び健康管理を推進
 - 2)ハラスメントを防止し快適な職場づくりを実現
 - 3)年次有給休暇の取得促進のための取り組みの実施
2. 関連グループのスケールメリットを生かした学校運営の展開
 - 1)各校が持つ様々な情報を共有し、ノウハウを生かした活動を展開
 - 2)経費削減と効率化の実現

3. 教育方針

令和4年度 学校法人巨樹の会 教育方針

I. 科学的な根拠に基づく実践力を身につけた医療従事者の養成を行う

1. 基礎教育と臨床研修との一貫教育の徹底
 - 1) 実践能力の強化に向けてた教育体制作り
 - 2) 一人ひとりを大切にた教育体制(90%以上の進級・卒業率を目指す)
 - 3) 専門職連携を踏まえた教育の強化
2. 国家試験資格取得にむけての確実な指導體制(100%合格を目指す)
3. 関連施設への就職(昨年度以上の就職率を目指す)

II. 次世代教育に向けて、実践力のある教員の教師力を育成する

1. 教育の効率、主体的学習意欲を高めるICT機器活用ができる能力の育成
2. 専任教員の教育実践における質向上への取組み
専任教員養成講習会(NS)・養成施設教員等講習会(PT・OT)への参加促進
専任教員(NS)の継続研修参加促進
3. 大学におけるFDの充実とその活用を促進する
4. 学内・学外における研修制度の活用
5. キャリア向上のための修士・博士課程の大学院進学への推進

III. 令和健康科学大学開学後のスムーズな教育への導入と教育実践・評価を行う。

1. 各学部の教育活動について、三つの方針に則り、教育の質の保証と向上を図る。
学位授与の方針(DP) 教育課程編成・実施の方針(CP) 入学者受入れの方針(AP)
2. 教育の質向上を継続的に図るため、内部質保証システムの運用と教育の見直しを行う。

IV. 大学及び専門学校の職員教育の充実を図る。

学校法人の職員として、学生を支援する立場で学校運営を考えるためのSDを推進する。

V. 福岡看護専門学校、福岡和白リハビリテーション学院2校の閉校準備と同時に他専門学校の再構築、並びに、大学院設置準備に取り組む。

1. 閉校する専門学校の在校生の教育を教職員全員で支援する
2. 八千代校の定員増員に向けて準備を行う
3. 大学院開設のために、準備室を配置し申請準備に取り組む

4. 教育計画

I. 教育の強化

1. 自ら状況判断できる看護師、助産師、理学療法士、作業療法士を育成するために、「主体的に学ぶ」という姿勢を育む教育を実践する。

- 1)知識注入型の教育ではなく、思考する教育方法を取り入れた講義、演習、実習に取り組んでいく。
- 2)様々な学生指導において、指示待ちではなく自分で考えさせる指導方法を実践する。
- 3)学生のやりたいという思い(モチベーション)を大切にした教育を工夫する。
- 4)自分にも出来るというような達成感を感じられる教育方法、学生を認める関わりを実践する。

2. ICT教育を全面的に取り入れた授業運営を通して、カリキュラム評価を行い、カリキュラムを運営する。

- 1)ICT教育の徹底を図り、教育効果を高める教育方法の向上を目指し運営する。
- 2)カリキュラムの運営を通して、講義・演習・実習における評価を検討し、教育内容・方法・技術の強化を行い運営する。

II. 学生支援について

1. 学生支援体制を整える。

- 1)学生の主体性を尊重した教育的な関わりをもち、学生の支援体制をつくる。
- 2)教員自ら積極的に挨拶を行い、学生との関わりを機会をふやし自ら学生のモデルとなる。
- 3)学校カウンセラー・健康担当医と連携して、学生の学業継続を支援する。
- 4)教科外活動、課外活動などを通して、学生間の交流を図る。
- 5)早めの就職指導を行い、卒業生の就職率を高める。
- 6)卒後3年間の臨床経験を通して実践力を身につけることができる卒後教育が充実した病院への就職を斡旋する。

III. 国家試験対策の強化

1. 国家試験全員合格に向けての対策の強化を図る。

- 1)昨年度の国家試験対策の評価を行いながら、国家試験対策の強化を図り、全員合格を目指す。
- 2)各学年の学生の傾向を分析しながら、教育方法を工夫し、学生の基礎学力の向上を図る。

IV. 入学生確保について

1. 入学生の確保を強化する。

- 1) 広報委員会を中心とした計画的運営により、広報活動を積極的に行う。
ホームページ、ブログ、リスティング等、WEB上の広報活動の充実を図る。
パンフレット、配布資料、広告、募集活動の工夫を行う。
- 2) 各科の特徴を生かした募集活動を、WEBを含めて戦略的に行う。
看 護: 指定校推薦校の見直し、募集活動の早期化、範囲拡大(地域、大学など)
進路指導教員へのアプローチ、入試の定着、募集活動の範囲・学校訪問
数の拡大、複数回の訪問
助 産: 卒業生、在校生勤務地を活用した募集活動
全国区への募集、関連施設(関東含めて)へのアプローチ
PT・OT: 奨学金制度の充実、進路指導院へのアプローチ、複数回の学校訪問、
充実したオープンキャンパスの開催
OTの職業認知を徹底的に高める活動を実戦

V. 管理体制の強化

1. 「職業実践専門課程」の継続的な認定を目指す。

- 1) 企業等との連携を図り、「教育課程編成委員会」を参考にカリキュラムの改善を行う。
- 2) 「学校関係者評価」を実施し、教育における教育内容・教育方法を充実する。
 - (1) 授業・演習・実習指導等についての授業評価を計画・実施して、自己の指導の指針とする。
 - (2) 学校関係者評価の結果について外部公表を行い、各校改善を行う。

2. 専任教員キャリア別達成目標を活用し、教員の質の向上に努める。

- 1) 教職員の適正人数の配置を行う。
(人員配置、実習指導教員の強化、図書司書の配置)
- (1) キャリア別に目標設定することで、教員自身の本校での位置づけを明確にし、主体的に判断・行動できる。
- (2) 教員をサポートする研修体制の充実を図る。
 - ① 関連学校における中央研修への積極的な参加
 - ② 各専門領域での専門性を向上するための研修の支援体制の整備

3. 円滑な学校運営を行う。

- 1) ワークライフバランスを考慮した業務内容の見直し、業務改善を行う。
 - (1) 学科ごとに業務内容のマニュアル化を進めていく。
 - (2) 会議運営について、組織的・効果的な実施を図る。
 - (3) 業務改善を行い、残業時間を短縮する。
- 2) 情報機器の活用により、業務の効率化、情報の共有化を図るとともに、情報セキュリティ対策を強化する。

5. 設置する学校・学科等

大 学

令和4年5月1日現在

大 学 名	開校年月	学 部	学 科	修業年限	入学定員	総定員数	備 考
令和健康科学大学	令和4年4月	看護学部	看護学科	4	80	80	令和4年4月開学
		リハビリテーション学部	理学療法学科	4	80	80	
			作業療法学科	4	60	60	

専修学校

学 校 名	開校年月	学 科		修業年限	入学定員	総定員数	備 考
福岡看護専門学校	平成2年4月	看護学科	3年課程 全日制	3	-	100	
		※令和4年度学生募集中止					
福岡看護専門学校	平成2年4月	看護学科	2年課程 夜間定時制	3	-	50	平成4年開設
		※令和3年度学生募集中止					
小倉リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3	80	240	平成18年40名増
		理学療法学科	夜間コース	4	40	160	
		作業療法学科	昼間コース	3	40	120	
下関看護リハビリテーション学校	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3	80	240	平成18年40名増
		看護学科	3年課程 全日制	3	40	120	平成22年開設
八千代リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3	80	240	平成18年40名増
		理学療法学科	夜間コース	4	40	160	
		作業療法学科	昼間コース	3	40	120	
福岡和白リハビリテーション学院	平成19年4月	理学療法学科	昼間コース	3	-	160	
		※令和4年度学生募集中止					
		理学療法学科	夜間コース	4	-	80	
福岡和白リハビリテーション学院	平成19年4月	※令和3年度学生募集中止					
		作業療法学科	昼間コース	3	-	80	
		※令和4年度学生募集中止					
福岡水巻看護助産学校	平成20年4月	看護学科	3年課程 全日制	3	80	240	
		助産学科	1年課程 全日制	1	16	16	平成23年開設 令和4年定員9名減
武雄看護リハビリテーション学校	平成23年4月	理学療法学科	昼間コース	3	40	120	
		看護学科	3年課程 全日制	3	40	120	

助産院

施 設 名	開設年月	部屋数	備 考
みずまき助産院 ひだまりの家	平成22年9月	6床	・H22.9～H23.3まで出張助産にて運営

6. 学生数の状況

(令和4年5月1日現在)

令和健康科学大学

(単位:人)

学 部・学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
看護学部 看護学科	80	180	98	2.25	80	98
リハビリテーション学部 理学療法学科	80	100	76	1.25	80	76
リハビリテーション学部 作業療法学科	60	37	31	0.62	60	31
計	220	317	205	1.44	220	205

福岡看護専門学校

(単位:人)

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
看護学科 第1科 (3年課程 全日制)	-	-	-	-	100	96
看護学科 第2科 (2年課程 夜間定時制)	-	-	-	-	50	46
計	-	-	-	-	150	142

小倉リハビリテーション学院

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
理学療法学科(昼間)	80	101	92	1.26	240	261
理学療法学科(夜間)	40	17	22	0.43	120	92
作業療法学科(昼間)	40	42	43	1.05	160	119
計	160	160	157	1.00	520	472

下関看護リハビリテーション学校

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
理学療法学科	80	58	48	0.73	240	170
看護学科 (3年課程 全日制)	40	54	41	1.35	120	118
計	120	112	89	0.93	360	288

八千代リハビリテーション学院

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
理学療法学科(昼間)	80	174	85	2.18	240	273
理学療法学科(夜間)	40	35	44	0.88	160	152
作業療法学科(昼間)	40	59	44	1.48	120	123
計	160	268	173	1.68	520	548

福岡和白リハビリテーション学院

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
理学療法学科(昼間)	-	-	-	-	160	178
理学療法学科(夜間)	-	-	-	-	80	22
作業療法学科(昼間)	-	-	-	-	80	87
計	-	-	-	-	320	287

福岡水巻看護助産学校

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
看護学科 (3年課程 全日制)	80	142	74	1.78	240	220
助産学科	16	95	16	5.94	16	16
計	96	237	90	2.47	256	236

武雄看護リハビリテーション学校

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
看護学科 (3年課程 全日制)	40	62	41	1.55	120	126
理学療法学科	40	61	45	1.53	120	123
計	80	123	86	1.54	240	249

法人全体数	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
	836	1,217	800	1.46	2,586	2,427

7. 役員及び評議員の概要

(令和5年3月31日現在)

①役員・評議員の数

	選任条項別定数実数					
	選任基準			定数	実数	
理事 (定数7～11)	7-1-1	学校長及び学院長	理事会選任	1～2	2	9
	7-1-2	評議員	評議員会選任	4～5	4	
	7-1-3	学識経験者	理事会選任	2～4	3	
監事	-	-	理事長選任	2	2	2
評議員 (定数16～23)	24-1-1	法人職員	理事会選任	4～6	4	21
	24-1-2	卒業生	評議員会選任	3～5	5	
	24-1-3	学識経験者	理事会選任	9～12	12	

②役員名簿

役職	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	選任基準
理事長	蒲池 眞澄	H1.8.1	非常勤	7-1-3
理事	西村 泰治	R2.10.1	常勤	7-1-1
理事	片山 薫	R4.6.1	非常勤	7-1-1
理事	鶴崎 直邦	H8.8.1	非常勤	7-1-2
理事	山本 智子	R4.4.4	常勤	7-1-2
理事	中野 盛夫	H23.3.28	非常勤	7-1-2
理事	寺坂 禮治	R3.10.23	非常勤	7-1-2
理事	稲川 利光	R3.10.23	常勤	7-1-3
理事	藤井 茂	H31.3.2	非常勤	7-1-3
理事	樋渡 啓祐	R4.6.1	非常勤	7-1-3
監事	生野 憲生	R4.4.1	非常勤	-
監事	本岡 大祐	H30.6.1	非常勤	-

8. 国家試験合格状況

<第112回 看護師 全国平均合格率 90.8% 第106回助産師 全国平均合格率 95.6%>

学校名	学科名	受験者数	合格者数	合格率(%)	課程別 全国合格率(%)
福岡看護専門学校	看護学科第1科 (3年課程 全日制)	41	36	87.8%	95.7%
	看護学科第2科 (2年課程 定時制)	45	42	93.3%	96.1%
福岡水巻看護助産学校	看護学科 (3年課程 全日制)	66	63	95.5%	95.7%
	助産学科	16	16	100%	95.6%
下関看護リハビリテーション学校	看護学科 (3年課程 全日制)	29	27	93.1%	95.7%
武雄看護リハビリテーション学校	看護学科 (3年課程 全日制)	40	39	98%	95.7%

<第58回 理学療法士・作業療法士 全国平均合格率 PT 87.4% OT 83.8%>

学校名	学科名	受験者数	合格者数	合格率(%)	新卒 全国合格率(%)
小倉リハビリテーション学院	理学療法学科 (昼間・夜間)	99	96	97.0%	94.9%
	作業療法学科(昼間)	33	31	93.9%	91.3%
下関看護リハビリテーション学校	理学療法学科	53	53	100%	94.9%
八千代リハビリテーション学院	理学療法学科 (昼間・夜間)	118	118	100%	94.9%
	作業療法学科(昼間)	36	36	100%	91.3%
福岡和白リハビリテーション学院	理学療法学科 (昼間・夜間)	93	90	96.8%	94.9%
	作業療法学科(昼間)	42	41	97.6%	91.3%
武雄看護リハビリテーション学校	理学療法学科	38	38	100%	94.9%

Ⅱ. 事業の概要

1. 令和4年度事業の概要

学校法人巨樹の会の令和4年度における事業の総括概要は、以下の通りである。

1) 令和健康科学大学 開学

学校法人巨樹の会は母体となる専門学校¹の教育的資源を継承し、「幅広い教養と思考力、探究心、倫理観を統合した実践力を備えた医療専門職」の養成と、持続可能な健康社会の実現を目指し、令和健康科学大学が令和4年4月1日に開学した。

写真：令和5年3月15日上空通路竣工



※令和4年年度の事業報告については、「2. 各学校の事業報告」参照

2) 八千代リハビリテーション学院 増築工事

令和5年4月1日より理学療法学科昼間コースと作業療法学科昼間コースの入学定員の増員を行うことにより、令和4年1月より着工した校舎の増築工事が令和4年12月に竣工した。同時にB棟（既存棟）についても改装及び改修を行い、質の高い教育環境と快適な学習環境の充実に

実現するための整備を行った。

左側増築部分A棟、右側既存棟B棟



3) その他事業

(1) 運営体制の強化

定期で実施される理事会の他、原則として毎月常任理事会を開催し、法人の運営及び経営が滞りなく行われるような体制をとっている。

＜実施状況＞	理事会	4回
	評議員会	3回
	常任理事会	6回

(2) 学校法人規程の整備

設置申請時及び審査時に指導を受けた未整備の規程策定を行った。令和健康科学大学開学の初年度のため、科学研究費等公的研究費の規程を策定し、研究活動に支障が無いよう整備を行った。また、各監査が円滑に遂行できるよう監事監査規程及び内部監査規程を作成し体制の整備を行っている。

諸規程については、実際の運営に照らし合わせて改訂を行い、必要な規程の追加についても引き続き検討し、各部門に対して組織共通的に定めた様々なルールを理解・浸透させ、学校運営を円滑に進められるようにする。

(3) 教職員の資質向上の取り組み

<大学院進学推奨制度申請実績>

専門学校7校の教員及び事務職員に対する「人材の育成」、「職員の資質向上」、「教育基盤の充実」を目的として、大学院（大学院設置基準第14条適用大学院、および学校法人理事長がこれらに準ずる大学院であると認定するもの）への進学推奨制度を策定し、「大学院進学（修士・博士）推奨規程」を制定している。

(申請実績)

年 度	博士課程	修士課程
平成29年度以前	1件	12件
平成30年度	4件	10件
平成31年度	1件	1件
令和2年度	0件	2件
令和3年度	1件	1件
令和4年度	1件	2件

<学会発表及び論文掲載発表実績>

専門学校7校の教員及び事務職員における研究成果について、各種学会等へ発表することを奨励し、発表を行った職員に対しては「学会発表・論文発表褒賞に関する細則」に則って褒賞金の支給を行っている。

(発表実績) ※平成31年度以前は未集計

年 度	学会発表	論文発表
令和2年度	7件	10件
令和3年度	1件	5件
令和4年度	3件	2件

<合同学術研究発表会参加>

カマチグループで実施している年2回の合同学術研究発表会に、学校法人の各校も参画し、若手職員の育成に努めている。

<メンタルヘルス研修>

関連グループである巨樹の会健康保険組合主催のメンタルヘルス研修に学校法人巨樹の会も参画し様々なメンタルヘルス研修に多数の教職員が参加した。オンラインで開催された計12回の研修会に、延べ183名の教職員が参加し、心の健康維持や、効果的なストレス対策をとるために必要な知識を学ぶことが出来た。(講師：SOMPOヘルスサポート株式会社)

管理者向研修では、傾聴スキルや、アサーションスキルといった部下とのコミュニケーションに繋がるような研修が実施された。

新入職者向け研修では、メンタルヘルスの基礎知識や、ストレスの気づき方を学び、メンタルヘルス知識・対応方法の取得を目指した。

その他にも、腰痛対策セミナーや、リラクゼーション研修を実施した。

<実習先病院の研修>

令和4年度に開学した令和健康科学大学の事務職員を対象として、福岡和白病院での研修を実施した。リハビリテーション科や、看護部、薬局や医事課等病院の各部署を1人当たり3日間で研修し、病院の業務を知ることで、職員の役割を再考する機会となった。また、学生の実習施設を知ることで、医療系大学の事務職員の自覚を再確認することができた。

(4) 国家試験合格率 100%及び退学者抑制の取り組み

国家試験合格率 100%実現に向けた取り組みの一つとして、専門学校7校において、看護師、助産師、理学療法士、作業療法士の国家試験の合格率に応じて教職員へ報奨金を支給している。また、退職者抑制の取り組み（進級率・卒業率90%以上の実現）として受け持ったクラスの学生の進級率に応じた担任進級手当支給制度を導入している。

このようなインセンティブ制度を設けることにより、目標が明確となり、教職員の達成感やモチベーションのアップ、業務意欲の向上、チームワークの強化も目指している。

(5) 業務効率化の推進

令和健康科学大学及び法人本部を対象として、一部の稟議書において電子決裁システムを導入した。稟議書や購入伺いを電子化したことにより、ペーパーレス化による経費削減及びスピーディーな合議決裁による時間短縮につながっている。今後も全稟議書の電子化及び法人内の学校全てに電子決裁システムを導入することを目標とし、法人全体の業務効率化の推進を図っている。

2. 各学校の事業報告

法人の事業方針に基づいて、各校が策定した事業計画への主な取り組みは以下のとおりである。

令和健康科学大学

— 日本の医療を変える大学を作る —

令和4年度は、令和健康科学大学が開学した年度であり、新たな伝統の構築を念頭に置きつつ、大学設置計画書に基づき運営した1年間であった。

第1期の入学生は、看護学部看護学科98名、リハビリテーション学部理学療法学科76名ならびに作業療法学科31名の合計205名であった。

また教職員は、教授19名、准教授6名、講師11名、助教5名(令和4年4月1日現在)を採用した。

初年度であることから、様々な課題に対応するためのルールを構築した。また、4月以降新型コロナウイルス感染症の拡大が教育に及ぼした影響も大きく、その対策に追われる1年でもあった。

このような状況においても、設置計画書に記載した計画については、概ね実施することができたと自己評価する。また、令和4年度の状況を踏まえつつ、教務、学生支援、研究、入試広報、情報管理や会計等の分野で各々の業務の見直しが行われ、入学者の状況も改善している。

教員の就任辞退等に起因する教員の補充など、専任教員の補充についても、カリキュラムに影響を及ぼさないように適切に対応している。

令和5年度以降は、新設大学としての目的を構成員が共有し、新たな伝統を構築するとともに、設置計画を着実に履行する。また、高度職業人養成のための大学院の設置に向けて準備を進める。

令和4年度の実施状況に関する詳細は、以下のとおりである。

1. 教育

計画

多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力を基盤とし、倫理観及び探究心を統合した実践力を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職を養成するための教育課程を編成し実施する。

実施状況

事業計画に基づき、教育課程の編成及び実施を推進するとともに、学生の成長を支援する方策を実施した。2年次には、退学者、休学者を除き看護学科 97 名、理学療法学科 73 名、作業療法学科 29 名、計 198 名が 2 年次に進級した。

1) カリキュラムの実施

計画への記載事項は、本学の設置計画書よりの転記であるが、初年度のカリキュラムとしては計画通りに実施することができた。

カリキュラムの運営に当たっては、開学当初と言うこともあり、教務委員会において、様々な課題に対応するためのルールを構築した。

検討を行った主な事項は以下のとおりである。

- ①出欠管理
- ②出席変更願の提出
- ③公認欠席の取扱い及び変更処理
- ④定期試験における受験資格の確認
- ⑤再試験対象学生の公表方法
- ⑥定期試験の答案の返却
- ⑦成績評価
- ⑧学生の剽窃行為の防止対策
- ⑨履修要件と進級要件
- ⑩教務委員会の下部委員会の設置

2) 教員の補充

教育内容の充実及びカリキュラムの実施には影響が生じないように、後任教員を検討し「専任教員採用等設置計画変更書類 (AC 教員審査)」を文部科学省へ提出した。なお、一部の分野については、引き続き補充の検討を行っているところである。

(令和 5 年 3 月 31 日現在)

所属	就任辞退等教員	補充教員氏名	就任時期等
看護学科	K 准教授	選考中	
	N 教授	選考中	
理学療法学科	Y 教授	稲川教授	令和 4 年 9 月 1 日
		山口教授	令和 4 年 9 月 1 日
	K 教授	(富永教授)	
		野中助教	令和 4 年 9 月 1 日

教員全体の数は、以下のとおり。

	5年4月採用予定者				4年度末在職者				計				合計
	大 学	看 護	理 学	作 業	大 学	看 護	理 学	作 業	大 学	看 護	理 学	作 業	
学 長	1								1				1
教 授		3	1	1	1	6	8	5	1	9	9	6	25
准教授		1				3	2	1		4	2	1	7
講 師		3				5	4	2		8	4	2	14
助 教		2	4	1		1	3	3		3	7	4	14
助 手		7				1							8
特 任	2				2	(2)			4				4
計	3	16	5	2	3	16	17	11	6	32	22	13	73

また、令和5年4月1日付けで、学生の健康管理の充実のために健康支援センターを設置し富岡特任講師（公認心理士）を、大学院設置準備のために大学院設置準備室に正野特任教授を採用する予定である。

3) 学生支援

学生の大学での生活においては、正課教育と共に正課外の生活も重要である。

本学では、学生委員会と学務課学生係が中心となって、学生支援活動を展開した。

学生支援活動の詳細は、以下のとおりである。

i) 学生指導

入学式の翌日に、入学生に対するオリエンテーションを実施し、学生生活全般に関する説明を実施した。また、7月27日に、福岡県警東警察署の協力のもと、防犯に関する意識付け及び知識等の向上につなげて学生身の安全確保を図るために、新入生全員を対象とした「防犯講座」を開催した。

各学科では、クラス担任制あるいはアドバイザー制度として指導教員を配置し、学生指導を行った。クラス担任制あるいはアドバイザー制度の導入により、学生の修学上の事項を中心に相談を行ったことは、修学及び学生の生活支援において有益であった。

また、学生懲戒の基準及び学生表彰規程を定めた。

ii) 経済的支援

新入生を対象とした、日本学生支援機構の説明会を開催した。

日本学生支援機構の奨学金受給者の対象は以下のとおりである。

奨学生人数（令和4年度入学生）

看護学科	70人
理学療法学科	46人
作業療法学科	21人
合計	137人

奨学金種類別内訳（令和4年度入学生）

種類 学科	給付				給付合計	貸与 第一種	貸与 第二種
	第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分	停止			
看護学科	3人	2人	6人	1人	12人	34人	52人
理学療法学科	5人	4人	2人	0人	11人	24人	33人
作業療法学科	7人	0人	2人	1人	10人	10人	13人
合計	15人	6人	10人	2人	33人	68人	97人

奨学金給付・貸与受給状況内訳（令和4年度入学生）

	看護学科	理学療法学科	作業療法学科	合計
給付のみ	1人	2人	3人	6人
貸与第一種のみ	15人	6人	3人	24人
貸与第二種のみ	32人	19人	6人	57人
併用貸与	11人	10人	2人	23人
給付+貸与第一種	2人	5人	2人	9人
給付+貸与第二種	3人	1人	2人	6人
給付+併用貸与	6人	3人	3人	12人
合計	70人	44人	21人	137人

iii) 大学や病院でのアルバイト斡旋

大学では「校内芝生等の草取り」アルバイト(時給 1,000 円)を 15 名採用して行った。

また、病院では福岡和白病院での「ケアワーカー」アルバイト(時給 900 円～)や、福岡和白病院内厨房での「食器洗浄」のアルバイトを斡旋した。

図書館においては、時間外の窓口業務のため、放課後の時間を利用したアルバイトとして 3 名の学生を採用した。

iv) 本学特待生の選考について、2 年次以降の選考の具体的な基準などを定めた。

v) 外活動支援

開学当初より新入生の中から、課外活動を行いたい旨の要望があったことから、サークル活動の設立申請を受付けるとともに、顧問の在り方や施設利用のルール等の検討を行った。令和 4 年度には、16 件のサークル活動が登録された。一部のサークル内で新型コロナウイルス感染症が確認されたため、7 月には体育館の使用を中止する事態となったが、10 月には感染防止を徹底し、安全な環境でサークル活動を再開させるためのガイドラインを制定して活動を再開した。

また、学生委員会では、学生の自主的運営活動の組織としての学友会(仮称)の設置について、

検討を行った。

学園祭の開催については検討が行われたが、新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ、令和4年度の開催は見送られた。

vi) 学生寮、学生アパート

本学は学生寮、学生用アパート「サンビュー和白」および「トピア唐原Ⅱ」を管理しており、学生の入居を斡旋している。

大学としては、福岡和白リハビリテーション学院、福岡看護専門学校の学生も併せて入居させていることから、寮生会の運営、入居者の入居ルールの遵守等に配慮してきたところである。また、学生寮入居者への朝食と夕食の提供については、「あきの会」の協力を得て学生食堂において実施している。

また、学生寮入居学生の新型コロナウイルス感染者の発生については、福岡和白リハビリテーション学院の教員とも協働して対応することで感染者の拡大を防ぐことができた。

なお、3施設とも老朽化している箇所については、改修を行った。

vii) 保健管理

開学当初から、新型コロナウイルス感染症への対策を行ってきたが、前期を中心に感染者数が増加し、学校保健師等は、感染者の把握、濃厚接触者の追跡、学内の感染対策、学内での情報共有など多用な業務に対応した。

また、一般定期健康診断を実施するとともに、感染対策委員会のもとで、健康管理ファイルの作成やワクチン・オリエンテーションを開催し、学生のワクチン接種履歴の把握に努めた。

心の健康については、福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院の非常勤カウンセラーに令和健康科学大学の学生に関する相談にも対応していただけるように依頼した。

また、学生の身体面と精神面の健康を支援するため、令和5年4月に健康支援センターを設置する。

viii) その他

- ・クリスマスツリー・イベント等

11月26日に、キャンパスにイルミネーションを設置し点灯した。

3学科の学生が飾り付けたクリスマスツリーを、12月9日に2号館1階グローバルサロンに設置した。

- ・鏡開き 1月11日に『鏡開き』（ぜんざい配布)を開催した。

2. 研究

計画

健康科学の学問的発展を目指し、幅広い観点から実践的研究を推進する。

実施状況

本学が、将来にわたり高度な教育研究を維持し、健康科学全般の実践的研究を推進するため、科学研究費補助金の獲得等を支援するとともに、研究環境の整備を行った。

1) 科学研究費補助金（科研費）の採択状況

本学が標榜する健康科学に関する個々の教員の研究課題を推進する観点より、科研費の獲得を目指した。8月5日に科研費への効果的な申請を支援するために、「科研費応募支援企画 レクチャーと申請手続き説明会」を開催した。

令和4年度の採択状況は、以下のとおりである。

学 部	新 規	左記内訳	継 続	左記内訳	科研費獲得額
看護学部	代表 3件	基盤C 3件	代表 6件	基盤B 2件	直接経費 29,683,905円 間接経費
	分担 1件	若手 1件	分担 6件	基盤C 9件 研究スタート1件	
リハビリテーション学部	代表 5件	基盤C 2件	代表 5件	基盤C 1件	4,529,399円
	分担 2件	若手 3件	分担 2件	挑戦 1件 若手 4件 研究スタート1件	

2) 大学支援研究費による研究支援

大学が独自に教員の研究を支援するための研究補助金として、「大学支援研究費」を設置した。令和4年度は総額400万円の研究費について、科研費を申請したが不採択となった研究者や、本学への異動のために科研費の申請が出来なかった教員らを対象として公募がなされた。その結果、研究計画書の審査を経て8名に、40～100万円の研究費が支援され有効に活用された。現在、研究成果の報告書の提出を実施しているところである。

3) 研究倫理、研究不正への対応

研究不正に関する規程等については、4月に制定し、ホームページにおいて公開した。

研究倫理を理解するため、全教員を対象にしたWebによる研修「APRIN eラーニングプログラム」を4月に実施した。また、研究事務を担当する事務職員についても、研究費不正の防止に関する研修会を実施した。

また、研究倫理については、3月6日に大分大学医学部今井浩光教授による研究倫理講演会「研究倫理の基本のき」を開催し、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の変更点を中心に、研究倫理に関する考え方を学んだ。

令和4年度は、研究倫理審査37件、利益相反45件を審査した。

3. 地域連携・社会貢献

計画

地域の現状に沿った活動を展開し、開かれた大学として地域の人々へ学びの場を提供するとともに、地域住民の健康増進と健康な生活づくりを推進する。

実施状況

本学を取り巻く自治体、地域及び他の教育機関等との連携を図った。

1) 福岡未来創造プラットフォームへの参加

福岡市を中心とする高等教育の振興と地域社会の活性化を目的として、福岡都市圏に位置する大学・自治体・産業界で構成された「福岡未来創造プラットフォーム」に加入し、学生募集作業部会における広報活動に参画した。

2) 和白公民館との協定

和白校区自治協議会と連携を深め、従来から要望が強かった災害時の臨時避難所設置について協定を締結し、非常時に和白地区から要請があれば体育館を開放するという協定を締結した。

また、地域の住民の方々からの要望により、適宜に大学見学会を実施し、本学への理解を深めていただいた。

3) 福岡工業大学との協定

大学共通テスト利用選抜の実施にあたり、福岡工業大学と共同実施する形態をとる旨の協定を、福岡工業大学と締結した。

4) インクルーシブ・フェスタ

NPO 法人列島会、社会福祉法人あきの会等が主催するインクルーシブ・フェスタ実行委員会の活動を後援し、「インクルーシブ・フェスタ(第1回 6月11日、第2回 11月12日)」の会場として体育館を提供するとともに、教職員と学生がボランティアとして参加した。

4. 組織運営

計画

学長が、学部長等との緊密な連携により、自らのリーダーシップを発揮し、教育研究面の管理運営を執り行う体制を構築するとともに、理事会との緊密な連携のもと将来構想等の検討を行なう。

実施状況

1) 大学運営会議

本学の運営に関する重要事項を審議するとともに、法人との連携を深めるために、計 30 回の大学運営会議を学長の主導により開催した。

主たる議題は、以下の通りである。

回数	開催日	審議・報告	議 題
1	4月1日	審議	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営会議の業務について ・大学運営会議の運営について ・教授会の運営について
2	4月6日	審議	<ul style="list-style-type: none"> ・入学生の状況について（報告） ・令和5年度入試日程について ・教授会の運営について ・令和健康科学大学大学院開設準備室設置について ・理学療法学科教員の公募について
3	4月20日		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況について ・令和健康科学大学 大学院設置準備室の立ち上げについて ・大学支援研究費助成に係る募集要領について ・リハビリテーション学部理学療法学科教員の公募について ・各種委員会について ・開学記念コンサートについて ・研究関係規程の整備について
4	5月11日	審議	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験委員会（令和4年4月22日開催）からの提案について ・福岡工業大学との大学入試共通テストに関する協定書の締結について ・大学支援経費の審査方法について
		報告	<ul style="list-style-type: none"> ・カマチグループ“看護を考える”講演会について ・令和健康科学大学開学記念コンサートについて ・令和4年度事業活動収支予算について ・福岡和白病院でのリハビリテーション学部教員の研修について
5	5月18日	審議	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度・学校推薦型選抜入試の指定校の選考について ・令和5年度・一般選抜(前期日程)入試の地方会場の選定について ・大学広報活動の計画について ・「大学支援研究費助成の審査要領」について ・福岡未来創造プラットフォームについて
		報告	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営会議への付議・報告・連絡のプロセスについて ・開学記念コンサートについて
6	6月1日	審議	<ul style="list-style-type: none"> ・前回議事録について ・風疹に関する対応について ・大学支援研究費について ・研究委員会等の委員長の交代について ・理学療法学科の教員公募について
7	6月15日	審議	<ul style="list-style-type: none"> ・計画履行状況報告等について 設置履行状況報告及びAC教員審査について 平成4年度AC教員審査日程について ・リハビリテーション学部理学療法学科の教員選考について
		報告	<ul style="list-style-type: none"> ・「入試ガイド」の作成について ・献血関係行事について ・風疹の疑いがある学生の検査結果について ・学園祭について
8	7月6日	審議	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策委員会からの感染情報共有に関する提言について ・学校推薦型選抜における指定校の追加について ・国試対策に関する取り組みについて

			<ul style="list-style-type: none"> ・2年次以降の特待生の選考方法等について ○報告事項 ・リハビリテーション学部理学療法学科における教員選考について ・高等学校教員説明会及び入試説明会について ・設置計画履行状況等調査(実地調査)の実施について
9	7月20日	審議	<ul style="list-style-type: none"> ・一次救命処置研修会」の開催について ・コロナ感染症への対応について ・大学院設置に関する組織について ・理学療法学科専任教員の選考について
		報告	<ul style="list-style-type: none"> ・広報委員会から報告について ・国際化推進委員会からの報告について ・専門職連携教育「専門職連携に求められる心構え」について ・規程の制定について (1) 特待生選考規程について (2) 学生懲戒規程について (3) 災害等における休講等に関する申し合わせについて ・三校調整会議について
10	8月3日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・教員人事の進捗状況について ・大学院設置に関する進捗状況について ・オープンキャンパスの開催状況について ・合同学術研究発表会について
11	8月10日	審議	<ul style="list-style-type: none"> ・教員等選考規程の制定について ・教員選考内規の制定について ・学会への広告掲載について
12	8月24日	審議	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の保護者との懇談会について ・学園祭について ・大学執行部について
13	9月7日	審議	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営会議構成員について ・規則の制定等 ・副学科長に関する規程 ・教授会規則(改定)
		報告	<ul style="list-style-type: none"> ・「IPW 推進への誓いのつどい」について ・オープンキャンパス実施報告
14	9月21日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人巨樹の会 組織図について ・リハビリテーション学部の実習計画について ・全学委員会名簿について
		審議	<ul style="list-style-type: none"> ・後期学生講義時の座席指定について(感染対策委員会) ・看護学部の学生便覧の改訂 ・令和5年度総合型選抜/社会人選抜入試および学校推薦型選抜入試における大学運営会議の報告日程検討
15	10月15日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プロジェクトについて ・第2回インクルーシブフェスタについて
		審議	<ul style="list-style-type: none"> ・規程の改訂 ・情報管理委員会 ・臨床シミュレーションセンター運営委員会
16	10月19日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動の再開について ・大阪歯科大学施設見学について ・10/1(土) オープンキャンパスについて実施報告
		審議	<ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会における委員の増員について ・大学入学前プログラム選定に関して ・看護学科 成人看護学領域の准教授候補者について ・AC教員審査について(リハビリテーション学部)
臨時	10月27日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度 総合型選抜/社会人選抜入試の入学試験合格者の選考結果について ・看護学部教員選考委員会に関する報告
		審議	<ul style="list-style-type: none"> ・令和健康科学大学大学院の設置構想について
18	11月2日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会決定事項 ・懲戒・表彰規程について

		審議	<ul style="list-style-type: none"> ・教員公募について ・看護学部在宅看護学領域について ・理学療法学科（神経領域）について
19	11月16日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会の下部組織について ・入学前プログラムについて ・教員人事委員会の報告(理学療法学科)
		審議	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の教員人事委員会の立ち上げに関して(理学療法学科) ・昇格人事の AC について ・教員候補者の面接審査のあり方について ・学友会に向けた設立準備委員会の設置について(学生委員会)
20	12月1日	報告	・令和5年度 学校推薦型選抜入試の入学試験合格者の選考結果について
		審議	・本学施設利用規程(案)について
21	12月7日	報告	・感染対策委員会より
		審議	<ul style="list-style-type: none"> ・本学施設利用規程(案)について(継続審議) ・和白丘自治協議会との協定について ・令和4年度間接経費執行状況と執行(案)
22	12月21日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・東義大学について(国際化推進委員会) ・令和5年度 学校推薦型選抜(指定校制・公募制)入学試験(追試験)合格者選考結果について ・令和5年度学年暦ならびに入学式日程について
		審議	<ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理審査の申請書式改定案について(研究委員会) ・臨床実習支援システムの導入について(理学療法学科) ・基礎学力向上プロジェクト報告 ・令和5年度一般選抜前期日程選抜及び大学入学共通テスト利用選抜並びに一般選抜後期日程選抜入試における大学運営会議の報告日程検討
23	1月11日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法学科 富永教授の役職名について ・春のオープンキャンパスの日程について ・学生の成績不良者の件 ・大学院設置準備室の現況について
24	1月18日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・本学事業計画について ・学生の出席指導について ・令和5年度 看護学科助手の採用について
		審議	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の健康管理組織の設置について ・教員選考規程の特例に関する申し合わせ ・第29回日本看護診断学会学術大会における広告掲載について ・令和5年度の2号館7・8階教員研究室配置(案)について
25	2月10日	審議	<ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜(前期日程)試験および大学入学共通テスト利用選抜の合格者の選考について ・健康支援センターの設置について ・学生相談室特任講師の採用について
		報告	<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭の日程について ・学友会設置準備委員会について ・AC 教員審査結果について ・看護学科助手採用の件 ・看護学科教員辞退について
26	2月22日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜(前期日程)追試験の合格者の選考について ・入学手続き状況について ・健康支援センター長について
		審議	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度予算の件 ・裁量労働制について
27	3月1日	審議	・今後の本学における新型コロナウイルス感染症対策について
		報告	<ul style="list-style-type: none"> ・AC 教員審査について ・カンファレンスルーム改装ならびに学食増席について
28	3月7日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜後期入試合格者選考について ・令和4年度 設置計画履行状況等調査の結果について ・令和4年度大学等設置に係る寄附行為(変更)認可後の財政状況及び施設等整備状況調査の結果について ・2023年度 学生募集イベントの日程について

		審議	・和白校区自治協議会より本学の地域避難所としての利用について
29	3月16日	報告	・学生の道路横断及び見回り報告について ・学籍異動について ・入学式、辞令交付、新入教職員オリエンテーションについて
		審議	・教員のAC審査結果について(理学療法学科 内部障害系教員) ・看護学科教授(看護管理学)採用について
30	3月27日	報告	・一般入試後期選抜Ⅱの入試結果について ・2023年度 学生募集イベントの日程について

2) 委員会活動

各種委員会の審議内容は以下のとおりである。各々の課題について審議を行い、大学運営会議の審議を経て実施した。

会議名	任務	審議事項
大学運営会議※	本学の重要事項を審議し、学校法人との連絡調整を図る	(1) 大学の将来構想に関すること。 (2) 中期計画及び年度計画に関すること。 (3) 教員の人事に関すること。 (4) 学則その他教育研究に係る重要な規則の制定及び改廃に関すること。 (5) 教育課程の編成に係る方針に関すること。 (6) 学生支援に係る重要事項に関すること。 (7) 教育研究の状況に関する点検評価に関すること (8) その他、大学の運営に係る重要事項
入学試験委員会※	入学試験に関する諸課題を検討	(1) 入学試験の企画運営に関すること。 (2) 入学試験結果の検証に関すること。 (3) 入学試験の方法の検討に関すること。 (4) その他入試に関すること。
教務委員会	教務に関する諸課題を検討	(1) 教育課程に関すること。 (2) 教育成果の検証に関すること。 (3) その他学生の教務に関すること。
学生委員会	学生生活支援、就職支援等に関する諸課題を検討	(1) 学生生活の指導に関すること。 (2) 学生の課外活動に関すること。 (3) 学生の奨学金に関すること。 (4) 学生の就職に関すること。 (5) 学生の賞罰に関すること。 (6) 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること。 (7) 学生生活の実態調査に関すること。 (8) その他学生生活上必要な事項に関すること。
広報委員会	大学の広報等に関する諸課題を検討	(1) 大学の宣伝広告に関すること。 (2) 学生募集の広報に関すること。 (3) ホームページの運営・管理に関すること。 (4) 教育情報の公開に関すること。 (5) その他、大学広報に関すること。
研究委員会	研究の推進等に関する諸課題を検討	(1) 研究の推進に関すること。 (2) 研究倫理に関すること。 (3) 利益相反に関すること。 (4) 研究外部資金獲得に関すること。 (5) その他研究に関すること。
倫理審査委員会	指針に基づき、倫理的観点および科学的観点から、研究機関および研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に行う。	
利益相反管理委員会	産学官連携活動に伴い発生する利益相反を適切に管理することにより、本学の行う産学連携活動を健全かつ活発に推進するとともに、本学及び教職員等の社会的信用及び名誉を保持する	
国際化推進委員会	国際交流の推進等に関する諸課題を検討	(1) 海外の大学及び研究機関等との国際交流に関すること。 (2) 大学の国際貢献及び国際協力に関すること。

		(3) 留学生の受入れに関すること。 (4) 課外における外国語学習の支援に関すること。 (5) その他国際活動に関すること。
図書館委員会	大学における図書館に関する諸課題を検討	(1) 図書館の管理運営に関すること。 (2) 蔵書の管理に関すること。 (3) その他図書館に関すること。
大学評価委員会※	大学評価に関する諸課題を検討	(1) 自己点検・評価に関すること。 (2) 外部評価に関すること。 (3) 認証評価に関すること。 (4) 教員の業績公開に関すること。 (5) その他大学評価に関すること。
FD・SD委員会	大学におけるFD及びSDに関する諸課題を検討	(1) FDの企画・立案及び実施、運営に関すること。 (2) SDの企画・立案及び実施、運営に関すること。 (3) その他、FD及びSDに関すること。
ハラスメント対策委員会	ハラスメントに関する諸課題を検討	(1) ハラスメント防止に関すること。 (2) ハラスメント調査に関すること。 (3) その他ハラスメント対策に関すること。
情報管理委員会	大学の情報管理に関する諸課題を検討	(1) 大学の情報システムの管理に関すること。 (2) 大学の情報セキュリティに関すること。 (3) その他大学の情報管理に関すること。
感染対策委員会	感染対策に関する諸課題を検討	(1) 本学における感染防止対策を企画及び実施に関すること。 (2) 感染対策に関する情報集に関すること。 (3) 感染対策に関する教育に関すること。 (4) その他感染対策に関すること。
シミュレーションセンター委員会	臨床シミュレーションセンターの管理運営に関する重要情報を審議	(1)センターの事業に係る本学専任の教授又は准教授 若干名 (2)センターに兼務する本学専任の教授、准教授及び講師 (3)その他センター長が必要と認めた本学教職員

3) 大学院の設置構想

大学院の設置構想について検討が行われたが、具体的な内容については令和5年度に審議して決定することになった。

4) FD・SD

本学の教育研究の質の向上を図り、また課題の解決を図るために、様々な研修会が企画、運営された。実施状況は、以下のとおりである。

<全学FD・SD集計>

区分	全学									
名称	新任教員オリエンテーション	全体朝礼	APRIN eラーニングプログラム(eAPRIN)	「科研費」応募支援企画 レクチャーと申請手続き説明会	大学の事務職員として～自信を持って元気に仕事ができるように～	令和4年度心の問題と成長支援ワークショップ	令和4年障害学生支援実務育成研修会[基礎プログラム]	「福岡県若者就職支援センター」事業説明会	令和健康科学大学共通基礎コース(職員)	
対象	教員	教職員	教員	教員	事務職員	大学教職員	大学教職員	大学教職員	事務職員	
開催主体	全学	大学	研究委員会	研究委員会	大学	独立行政法人日本学生支援機構	独立行政法人日本学生支援機構	福岡県若者就職支援センター	研究委員会	
開催期日	4月1日	毎週水曜日	4月	8月25日	1グループ:9月5日 2グループ:9月30日	8月22日 9時50分～17時20分	9月13・14日 9時50分～16時55分	5月31日(火) ①13:30～14:00 ②14:10～14:40		
目的	4月1日付新入教職員の紹介ならびに、本学の沿革、グループの理念等を案内、また各種連絡等オリエンテーションを兼ねた内容である。大学の概要を理解する	全教職員に対し、学長より訓示、教員挨拶、連絡事項等を共有し連携を図る	研究倫理を理解する	教員に対し科研費の効果的な申請を支援する	本学グループ病院(新小文字病院)の看護師による接遇研修。心のこもった対応を行い、マナーアップにつなげる。	現代学生の心の問題、成長支援に関するニーズの理解を深め初期対応ができるようになる	教育機関における障害学生支援に関する知識等の習得を目的	今後の大学生就職支援に向けて、若者就職の現状把握の為	研究に係る業務に携わる職員として必要な知識の獲得及び資質向上	
実施方法	対面	対面	eラーニングプログラム	対面及びZoom	対面	Zoomによる配信	Zoomによる配信	Zoomによる配信	eラーニングプログラム	
参加者数	教員51名、事務22名	全教職員	20名	会場参加12名・Zoom参加44名	事務職員	Zoomによる配信1名	Zoom参加1名	Zoom参加8名	11名	

<学部FD集計>

区分	看護学部看護学科									
名称	臨床実践中心型カリキュラム：IDとADDIEモデル分析	臨床実践中心型カリキュラム：IDとADDIEモデル設計	臨床実践中心型カリキュラム：教授カリキュラムマップ作成(演習)	臨床実践中心型カリキュラム：ADDIE開発(メリルのID第一原理、GBS理論)	臨床実践中心型カリキュラム：心不全の看護を用いた例示、実施、評価	臨床実践中心型カリキュラムの実践：生活援助技術『コミュニケーション技術』	臨床実践中心型カリキュラム_授業設計の実践(演習)	シミュレーション教育と臨床実践中心型カリキュラムについて	シミュレーション教育の方法について	シミュレーション教育への導入の工夫(演習)
対象	看護学部教員(9月から大学院準備室教員含む)									
開催主体	臨床シミュレーションセンター主催、看護学部FD・SD委員会後援									
開催期日	5月18日	5月25日	6月1日	6月8日	6月15日	6月22日	7月6日	11月14日	11月14日	12月1日
目的	看護学部における教育の特長の1つである「臨床実践中心型カリキュラム」および「シミュレーション教育」について理解を深め、導入・構築を支援する									
実施方法	会場での対面講義及び演習									
参加者数	18名	19名	18名	15名	15名	19名	19名	19名	19名	20名
区分	リハビリテーション学部理学療法学科					リハビリテーション学部作業療法学科				
名称	大学におけるFDとは	理学療法学科の教育外観図の実現に向けて	協同学習の授業研究について	協同学習の授業研究について	作業療法学科FD研修会令和5年度科研費応募研究予演会	作業療法学科FD研修会「今どきの高校生を知ることから始まる大学の初年次教育1」	作業療法学科FD研修会「今どきの高校生を知ることから始まる大学の初年次教育2」			
対象	理学療法学科	理学療法学科(プロパー)	理学療法学科	理学療法学科	作業療法学科	作業療法学科	作業療法学科			
開催主体	理学療法学科(FD係)	理学療法学科(FD係)	理学療法学科(FD係)	理学療法学科(FD係)	作業療法学科	作業療法学科	作業療法学科			
開催期日	7月29日13:00~14:00	11月1日10:00~11:30	12月1日13:00~14:30	12月6日11:00~12:00	9月1日~14日	11月24日13:00~14:30	1月下旬~2月下旬			
目的	理学療法学科教員に対しFDとは何かを理解してもらうため	理学療法学科の教育外観図の実現に向けた検討	協同学習の方法論について授業実践(聴講)	12.01の授業を受けての意見交換	研究内容の精度を高め科研費獲得を目指す	学生指導の参考とする	学生指導の参考とする			
実施方法	対面	対面	対面	対面	応募者のプレゼンテーションと質疑応答	奥田邦夫先生の講演および意見交換	糸島高校の先生の講演および意見交換			
参加者数	15名	12名	12名	13名	6名	6名	20~30名			

5. 施設整備

計画

施設設備の不断の点検を行い、質の高い教育研究の基盤となる施設設備の充実を図る。

実施状況

1) 食堂、売店

学生・教職員の福利厚生の上昇のために、1号館1階を改修して学生食堂を設置し、6月1日から営業を開始した。

また、売店は6月13日に「Yショップ令和健康科学大学売店」として営業を開始した。

2) 上空通路

本学キャンパスは、県道59号線を跨って設置されており、従前から当該道路の乱横断が頻発することから、学生の安全への心配と共に、学生が交通ルールを守らないことへの地域住民からのご批判も多く寄せられる状況であった。本学は、上空通路(歩道橋)の設置を計画し、福岡市等と

の協議を重ねてきたところ、建設に関する認可を得たことから工事に着工した。

工事は、令和5年3月15日に竣工し、同日地域の住民、大学関係者等による開通式を挙行了した。

3) 学生寮、アパートの整備

学生寮については、設置から30年が経過しているため建物の老朽化が激しく、改修工事を行い、入居率の向上を図った。また、寮費を見直すとともに、一人部屋を設定する等、学生の選択肢を広げることにより、入居者の拡大を目指した。

学生アパート トピア唐原Ⅱについても、築30年を経過したことから、業者と協議の上、外壁補修工事と部屋内装(リフォーム)工事を行うこととなった。

6. 財務基盤

計画

学生獲得のため広報活動を充実させるとともに、経費の効率化を図る。

実施状況

1) 広報活動の充実

学生獲得のための広報活動は、広報委員会及び広報係を中心に実施した。さらに、カマチグループの多くの関係者に広報活動に参画いただいたうえで、高校の校長経験者により組織された広報活動の効果もあり、大学志願者数の増加につながった。

広報委員会は、令和4年5月16日(月)に第一回の広報委員会を開催し、全10回の広報委員会を実施した。

主な内容は、学生募集に関する施策及びイベント内容の検討を行った。

教員対象大学説明会は、6月17日(金)対面、6月21日(火)オンライン、6月24日(金)対面に実施した。参加校の合計は51校で52名の高校教員が参加した。

オープンキャンパスは、令和4年7月10日(日)、7月31日(日)、8月20日(土)、10月1日(土)、12月18日(日)ならびに令和5年3月18日(土)に実施した。各日程別にテーマが異なるプログラムで、受験対象者のニーズに合わせたイベントを実施した。

資料請求数(のべ数)は、令和4年度は、15,025件で、令和3年度と比較して、13%増加した。

また、学生広報チームによる広報を展開し、オープンキャンパスにおいては、相談ブース対応や案内業務等において活躍した。

2) 入試状況

令和4年度入学生の、入試状況等は以下のとおりである。

令和4年度は、初年度の入試で、入学願書提出期限までの広報活動の時間が限られていることも

あり、志願状況、入試状況等は以下のとおりとなった。

また、入学辞退者数についても、予測することが難しく、看護学科においては98名が入学し、入学定員を大きく上回る結果となった。

上記を踏まえ、令和4年度においては、本学のみならずグループの方々の協力を仰ぐとともに、オープンキャンパスをはじめとした広報活動を充実させた。

学 科	志願者	合格者 (補欠合格者)	入学者
看護学科	180名	129名(7名)	98名
理学療法学科	100名	96名(0名)	76名
作業療法学科	37名	38名(0名)	31名
計	317名	263名(7名)	205名

3) 経費の効率化

○予算管理

学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金、個人研究費、大学支援研究費について、会計ソフトの目的別予算管理を使用し予算管理を行った。さらに、予算残高を研究者と共有するためにシステム(科研費プロ)を導入した。

○手順

大学の会計処理は、金額が大きいだけでなく処理が複雑化している。特に令和4年度と令和5年度は専門学校2校と大学1校が、同じ土地と建物に共存しているため経費を按分する必要がある。その為、帳簿の記帳にも膨大な時間を要するため、一部をCSVで取り込む形式に変更した。それにより記帳の時間を1/3程度短縮できた。

7. 特記事項

1) 開学記念コンサート

5月21日 開学記念コンサートを開催した。

第一部 2号館1階メインホール 16時～ 保護者、学生対象

第二部 体育館 18時～ 学校職員、病院職員、地域、業者の方等対象

演奏者：バイオリン奏者 中澤 万紀子様

ピアノ奏者 金山 千春様

バンド演奏 国土無双

2) 臨床シミュレーションセンターの活動

学部学生の臨床実践力を向上させるために、シミュレーション教育に関連した学習や教材、医療技術、コース開発を支援し、地域に根ざした医療従事者を育成するとともに、臨床、医療スタッ

への研修のシミュレーション教育に関連した学習や教材、医療技術、コース開発を支援し、地域に根ざした医療従事者を育成する活動に貢献した。

関連施設ならびに学外の医療従事者を対象にした活動は、以下のとおりである。

また、教職員、学生を対象としたBLS研修を、計12回実施した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
福岡和白病院 院内研修	7回	4回	5回	1回 *2回 中止		3回 *1回 中止	4回	3回	*1回 中止	1回 *1回 中止	*1回 中止	1回
看護専門学校 教員対象研修		1回	1回	2回								
福岡看護専門学校 3年生学内実習				2回	1回					2回		
池友会救急・集中 ケア認定ラダーⅢ研 修会議				1回				1回				
池友会救急・集中 ケア認定ラダーⅢ研 修										1回 トライ アル	2回 準備/ 研修	
日本救急看護学会 終末期ケア委員会					1回 撮影							
日本救急看護学会 セミナー委員会					* 1 回 中 止							
日本救急看護学会 外傷看護委員会				**1回 中止								
九州救急看護認定 看護師会シミュレーション 研修									1回			

学習者一人ひとりに目を向けた教育の推進
～豊かな人間性、責任感のある看護専門職の育成を目指して～

1) 看護実践力の向上

(1) 教育機材の充実を図り、社会に貢献できる実践能力を身につけた有能な人材の教育を行う。

①臨地における気づきの意識化と援助後のリフレクションの強化

各科目内や実習前の事例患者に適した看護技術演習をはじめとする教科外活動において、その状況から起こっていることをアセスメントする能力、必要なケア内容と対象に適した方法の選択ができる能力を育成するために、事例設定や状況設定により、患者のイメージ化を図ることを教員全体で意識している。

臨地においては、実習記録の指導よりも看護実践の介入・指導を中心に関わっていただいている。そして、ケア後のリフレクションを強化していただき、振り返ることで気づきや判断の学びが深化し、ケアの質を高められるようにした。ケア実施後のリフレクションは指導者・教員共に実施し省察することで課題に気づくことも多かった。

②シミュレーター（シナリオ・フィジコ等）の活用、教育方法の工夫

シミュレーション教育はタスクトレーニングとして、基礎看護学の診療の補助技術、母性看護学や小児看護学の対象に応じた技術を実施した。また、体験として高齢者体験キッドを用いた高齢者体験、精神看護学実習前に VR ゴーグルを用いた幻聴体験を実施した。

成人看護学Ⅵ（急性期）では、モデル人形に手術創やドレーンなどを装着し教材としイメージ化を図った。成人看護学Ⅳ（生命危機状況）では、CPR が蘇生につながったか質の評価を行えるよう今年度も演習を組み入れた。

臨床看護の実践の中でシミュレーション教育をしている。例年通り胃がん術後で離床を促す場面について事務職員・教員が患者役をし、OSCE を実施。また、例年経験値の低い看護技術（吸入、ストマ管理、気胸時の胸腔ドレナージなど）について、観察や看護介入を学べるようにし、同じ処置を受けていても様々な状況でケア方法が変わることを考えさせるようにした。また、タスクマネジメント、タイムマネジメントについては状況設定から根拠を意識しながら判断できるよう思考のトレーニングを実施した。第2科は複数受け持ちの対応について OSCE を実施した。その様子を動画撮影しリフレクションに活用した。

実習に関しては2年生は7月の基礎看護学実習Ⅱ4日間は学内での代替実習となり、実習グループによっては大学のシミュレーションセンターで臨地での状況に合わせた看護技術を実践した。3年生は母性看護学実習が臨地での受け入れが難しく、1週目は周産期看護のシミュレーションを実施した。夏期休業中の再実習においては学内での代替実習となった学生に対しシナリオベースドトレーニングを実施した。第2科の統合実習では病床環境の中で事例患者に対して優先度を考えながら観察・アセスメントをするシミュレーションを実施した。

代替実習では学生一人ずつに ID を付与し、医学映像セレクトの看護のためのアセスメント事例

集等動画を活用し患者理解やアセスメント～計画立案を行い、実習室で実践するなど工夫した。成人看護学実習Ⅱではシミュレーター人形に術後の患者の状態を作り、グループ毎に観察や判断、報告を行い、リフレクションを実施することで学びが共有できた。

③技術教育の強化とあり方の検討

2年生は診療の補助技術のチェックを実施した。

実習前の技術確認は基礎看護学実習Ⅱ前に、実習病棟で症例の多い疾患を持つ患者を設定し、必要と考える援助計画の立案、実施を行った。その後、技術発表会を実施し、3年生、教員より助言をもらう機会を設けた。患者に合わせた援助について具体的に助言をもらうことで原理原則はもちろん、個別のケア方法について学びを深めていた。さらに老年看護学実習Ⅰ前には事例を基に日常生活援助を実施し学生同士で評価を行い、ケアの個別性について話し合った。

3年生は成人看護学実習前に気管挿管・BLSの技術を担当教員が確認・指導してから臨地実習に臨んでいた。

卒業前技術演習は今年度も実施した。実習後に学生の看護技術経験から抽出した未経験項目、これまでの学生が希望していた技術項目、就職して1年が経過した卒業生に実施したアンケート結果等を基に項目を決定した。実施した項目は点滴作成（ミルキング・プライミング）、輸液・シリンジポンプの取り扱い、静脈血採血、逝去時のケアである。実施後の学生アンケートでは満足度が高かった。

第2科は、入学前の看護技術到達度のアンケート結果を基にカリキュラムに組み込んで教育した。結果、今年度は到達度が高かった。

④教育力向上に向けた教員研修の積極的な受講

看護部門4校の中央研修は3回開催され、2回はオンライン、1回は各校ごとに対面演習であった。教員全員が参加した。テーマは「シミュレーション教育：基礎編（オンライン）」「シミュレーション教育：応用編（対面演習）」「あなたにもできるファシリテーション実践編（オンライン）・ICTを活用した看護教育（オンライン）」ですべて現在の看護教育にすぐに適用できるような具体的な内容であった。アンケート結果においても満足度が高かった。早速、学生対応に活用できた。

5月に福岡和白病院と令和健康科学大学、福岡看護専門学校共同で看護を考える講演会を開催し、ナイチンゲールの看護に立ち戻る機会となった。また、医療倫理やチーム医療についての講演もあり、教員も改めて看護を考える機会となった。また、この講演会は会場の関係上、オンラインではあるが在校生も全員参加し、学びを得ていた。

他に、個人で受けている研修・学会もあるがほとんどがオンラインであった。教育研修等で、新カリに関する内容などは伝達講習を実施した。

2) 学生満足度向上の実現

①学生満足度の向上のための環境調整

令和4年度は2号館（新校舎）の完成に伴い主たる教室が2号館へ移ったが、4月は清掃業者が決まっておらず、清掃不行き届きが発生した。また、トイレが節水型を採用していたこともあり、トイレが詰まるという不具合があった。しかし、環境が整うに連れ、学生も新校舎の整った設備で授業が受けられたと考える。エアコンが集中管理になっており、暖房と冷房の切り替え時期の温

度調整が難しいという課題もあった。

教育環境について Wi-Fi 環境は整っている。図書館の蔵書数、学習環境、文献検索等、学習を促進する環境となった。情報処理室の PC が以前の福岡看護学校の PC と比較してかなり古く、起動、動作共にかなり時間がかかった。また、印刷ができなくなっていたため、IT 担当者に対応してもらい、印刷可能となった。学生からも環境面でマイナスの意見が出ていた。

②自ら学び探求していく教育方法の工夫

各学年始業時にその年度の履修計画を学生に示し、イメージできるようにしている。計画的に学習に臨む必要性を説明しているが、先を見越して行動できる学生は少ない。適宜声をかけ、課題等への取り組みを促している。

各学年の終わりに学年到達目標の到達度を自己評価した結果を学生にフィードバックすることで次年度につなげた。

3 年生は 4 月に「自分たちの国家試験対策を考えてみる」として、2 年次までの取り組み、現在の学習方法を振り返る機会を持ち、使いやすい学習ファイルの選択や、学習方法など決定した。前期では自主的に計画性を持って学習している学生は一部ではあったが、後期は実習終了後、国家試験までは集中して学習に取り組んでいた。

授業方法はグループワークや探求学習など工夫し、一方的な講義にならないように意識している。ルーブリック評価は実習、技術教育において取り入れており学習活動が学生にもイメージしやすいようにしており、毎年修正している。

3) ICT を活用した教育の推進

①ICT を活用した授業・実習指導の工夫

代替実習では学生一人ずつに ID を付与し、医学映像セレクトの看護のためのアセスメント事例集等動画を活用し患者理解やアセスメント～計画立案を行い、実習室で実践するなど工夫した。

コロナ禍の中、オンラインを使用して代替実習中の個別指導やグループカンファレンスを実施。質問に対しても LINE や Google のクラスルームを使用し、リアルタイムで問題解決を図ることにつながった。

iPad で演習風景を録画して演習後のリフレクションに使用した。動画で観ることで学生の振り返りには効果的であった。

②効果的な Wi-Fi の活用

教育環境について Wi-Fi 環境は整っている。図書館の蔵書数、学習環境、文献検索等、学習を促進する環境となった。

4) 各学年の履修率・卒業率向上のための取り組みの実施

①国家試験合格率 100% 実現に向けての各学年の取り組み強化。

2 年生は看護師国家試験過去問題集を購入し器官系統別の病理学の履修に合わせて国家試験問題を解き学習するようになった。成人看護学の看護過程においてはアセスメントが不足していた学生に対して夏期休業中に個別指導を実施した。夏期休業中の課題は国家試験頻出疾患の胃癌、糖尿病の病態、治療、看護とし、映像事例を基にイメージ化できるようにした。少しでも早く国家試験

問題に触れること、また、実習での学びと実際の試験問題がつながるように、実習前後に実習内容とリンクした科目の過去問題を解き振り返りを実施し担当教員に提出した。

3年生はほぼ月に1回、模擬試験を実施した。1年間を5期に分け、必修対策、高正答率問題に成績順のグループごとに取り組んだ。正解のみ理解するのではなく誤文を正文に直し、周辺知識の確認も行うように介入した。必修対策として朝8時から学習を行ったが、ほとんどの学生が参加し取り組めた。

夏期休業中、冬期休業中は成績下位者に対してセミナーを実施し、11月より個別に学習会を開始した。また、成績が近いメンバーでグループを作り学習会の実施と、個別学習を組み合わせた。1月からは学生の状況に合わせて問題を多く準備したり、模試の振り返りを実施したりと学生たちの希望を聞きながら進めた。2科の学生は就業している学生もおり、教員と時間を調整して個別指導を実施した。

②主体的学習の支援、学習方法の確立、効果的なグループ活動

実習中の学内日は時間内でどんな課題に取り組むか時間管理を含め学生が考える機会を作った。学生がやらされ感を覚えないよう、目標を示し、どんな方略を立てるのか考えられるようにしたが、実際はある程度教員が道筋を立てなければ進まないことも多かった。

実習グループ、成績が近いグループ、仲良しグループと状況に合わせて組み合わせながら活動を行った。

③臨地実習での学びの実感とタイムリーな指導

実習施設の協力については実習指導者会議にて実習目標・内容の提示、学生の背景について共通理解した後に、病棟ごとに担当教員が学生の個々について情報提供し指導者と共に学生の指導方法について検討している。学生の現状を理解され、協力する姿勢が強い。実習記録の指導よりも臨地での看護実践の介入・指導を中心に関わっていただいている。そして、ケア後のリフレクションを強化していただき、振り返ることでケアの質を高められるようにしている。また、経験の少ない看護技術項目の提示や到達度を示し協力を得ている。

④確実な単位習得修得への支援

2年生は1年次未履修科目を夏期・冬期休業中に集中講義を計画し、単位修得出来た。

2. 3年生の担当教員は複数おり、担任のみではなく、副担任、実習担当教員と様々な教員が学生と関わった。担当にこだわらず、学生は教員へ相談している。

事務手続き等に関しては自己責任ではあるものの、閉校が決定しているため、教員も意識し声をかけることが多かった。

保護者とは、実習中に限らず、履修に影響が出そうな場合は早めに連携を図っている。コロナ禍のため、対面ではなく、電話やオンラインを利用していることが多い。学校が問題意識を持っていることを早めに保護者に伝えておくことは学習支援のためにも必要であった。

第2科は全員卒業し、令和5年3月31日で閉科した。

⑤カウンセリングの効果的な活用、学生個々とのかかわり

学生カウンセリングは男女1名ずつ、月に計3回実施。学生自ら予約を取っており、すべての学生を把握はしていないが、必要時連携を図っている。また、学生の状況によっては教員よりカウンセリングを進めることもある。平均すると毎回3～4名の学生が利用している。カウンセリング

を受けるとして気持ちが整理できる学生も多い。

5) 社会貢献活動及び地域連携の充実

①福岡和白病院との共同活動（健康フェスタ・職場体験）

コロナ禍のためボランティア活動は機会が少ない。今年度は福岡県社会福祉協議会主催の“きずな”フェスティバルが2月に開催され2年生7名が希望し参加した。その他、福岡和白病院に来ている献血に協力している学生が数名いる。

②地域清掃活動

職員による行事前の校舎内の清掃・草取りを実施した。道路に面した歩道のごみ拾い等も行った。

6) 効果的な広報活動の展開

①ホームページ等を活用して本校の活動を情報提供

第1・第2科共に学校生活の様子を1～2回/月、ブログに掲載し情報発信を行っている。令和3年度に3科が閉校したことをきっかけに、証明書発行の問い合わせ先、ホームページに掲載している書式等の変更を行ったことにより、卒業生に分かり易いホームページとした。また、現在使用していない教室の写真、入試情報等の削除を行い、スマートなホームページにすることができた。

7) 経費削減

①業務の改善を図りながら、経費の見直しを継続して実施

教員会議は資料を共有ドライブ上にアップし各自の端末から確認することにより、ペーパーレス化を実施した。また、押印台帳・発簡文書台帳等は共有ドライブでの管理とし、本来掲示板に掲示する事項をライン@を利用し、経費の見直しを行った。

8) 業務効率化の推進

①業務分担を再考し、ワークライフバランスを改善

今年度も各学年複数担当制にしているが、カリキュラムグループ、実習グループ、またはそれを越えて協力し合っている。

Googleドライブを活用しての情報共有やオンライン会議等業務の効率化が図れている。

有給休暇は1年間で平均15日間消化できている。

残業については早出遅出の勤務者を決めているので残業はさほどなく勤務できている。しかし、実習中は学生の学習支援のため、1時間程度残業する場合がある。パート勤務者も同様である。多くて月あたり10時間程度である。

②新しい事務組織との共働

事務人員の業務分担等大幅に入れ替わりもあり担当係が不明なこと、また業務の引継ぎができず、教員は事務のどの部署と連絡をとるのか不透明であったため検討を重ね、役割分担、組織の明確化を行い教員側と事務側で共働して運営した。

9) 職員力の向上

①個人目標の設定と評価

学校法人巨樹の会 看護部門で共通のキャリア別達成目標シート（熟達・中堅・一人前・新任）を活用しつつ、個々で今年度取り組もうと思っていることや目標を掲げている。10月に中間評価、3月に年度末評価を行い管理者による面接を実施しフィードバックしている。

②各科の特徴に合わせた管理目標の設定と評価

管理目標について中間、年度末評価を実施。具体的な取り組みとその成果をできるだけ客観的に表現し、次年度の課題を明確にしている。2科は就業しながら学ぶ学生達であり、仕事と学校の生活の中で、自己学習の時間の捻出が困難となる学生がおり、学習面と体調管理においては個々で関わり科目履修ができるよう支援し全員が卒業した。

③コミュニケーション能力とリサーチ力を駆使した組織づくり

教員歴は幅広く、それぞれの価値観がある。教務主任を中心としたカリキュラム担当、実習調整者を中心とした実習担当に分かれ、協力しながら学校運営にあたっている。1年生がいない分、2・3年生について情報共有を密にし、情報共有に努めている。教員が意思決定、行動に判断基準を明確に持ち、基本は学生の平等性を意識しながら対応し一人ひとりの教員が自律できるように意見交換するようにした。

同施設で令和健康科学大学、福岡和白リハビリテーション学院、本校の3校を運営している。3校の教員間、教員・事務間で必要時、情報共有を行い、学生の学びの保証や教職員の勤務環境を整えた。

～地域から信頼される学校作り～

1) 学校教育力の向上

法人による教員研修会には全員参加し、学会等による研修会にも各職員の希望に基づき、参加しやすい体制を整え、今年度も対面またはオンラインによる研修会への参加を促した。

授業の質向上のため、教員間授業評価および学生による授業評価を実施したが、授業への工夫・改善に役立ったかの確認は不十分であった。

近年、ICT を活用した授業に取り組んでいるため、学生にとってわかりやすく活用しやすい授業となっているか、授業評価でも振り返りを行った。

今年度も新型コロナウイルス感染症に因る体調不良や出校停止、また天候不良時の際にも、遠隔授業システム（Zoom）の活用によりスムーズな授業対応ができた。しかし、遠隔授業では学習の理解度を確認しながら授業を進めることが難しい。そのため効果の検証を続けつつ、より効率的な活用ができるように、今後も積極的に ICT の活用を検討していく。

2) 社会の要請に応える研究を推進し、高度な実践能力を有する専門職者の養成

新型コロナウイルス感染症の影響により、グループ病院およびグループ病院外とのかかわりは、臨床実習のみに留まった。法人内に大学が設置されたため、今後は大学とも相談し研究等の推進を検討していく。

3) 地域社会貢献

新型コロナウイルス感染症の影響のため、今年度も学院祭が中止となり、地域との交流が行なえず、研修会等の会場借用依頼も少なかった。

近隣の中学校、高等学校への人材派遣（部活動支援や職業体験）などの地域貢献についても継続しているが、件数が減少し十分な活動はできなかった。

ボランティア活動は可能な範囲で奨励しているが、感染症の影響により、学生が参加できる活動の多くは中止になっている。今後も感染状況に考慮しながら、ボランティア活動は継続的に奨励していく。

4) 組織運営システムの体制強化について

意思統一、情報伝達のため会議組織の再編を図ったが、個人業務の不明確な部分があり、意思決定・統一の図りにくい部分があった。情報伝達にグループウェアやグーグルドライブ等の ICT

も活用してきたが、不十分であった。

次年度は、今年度の反省を踏まえ情報伝達体制のさらなる強化を検討していく。

5) 教育環境の整備

昨年度に続き遠隔授業に必要な環境を整え、劣化した教材等を確認し再購入した。今後も物品管理を強化し必要教材を整えていく。

6) 安定した財務基盤の維持

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も広報活動の行ないにくい時期もあったが、感染状況が落ち着いている時期に、オープンキャンパスの開催、高校ガイダンスへの出向等、学校の広報活動を行なった。また、希望する受験対象者に対し、関連病院にて理学療法士・作業療法士の仕事現場見学会も予定していたが、感染状況の拡大によりオンライン対応に変更となった。

在校生の状況（在学中の生活の様子・卒業後の就職先）を報告するために高校を訪問し、進路指導部に対して本学院の学生指導の取り組み等を説明し、理解とともに関係を深めた。

就職先が決まった学生の就職先を順次学内掲示するとともに、ホームページにも紹介し、資格取得後の就職先が受験対象者にイメージできるようにした。

ホームページにおいて、オープンキャンパスの参加申し込みや入学試験などの新しい取り組みも開始した。特に、Web出願制度による入学試験は、提出書類等を分かり易い様式に変更を行なった結果、利用頻度が増加した。

下関看護リハビリテーション学校

信頼され、選ばれる学校

学生の学力強化と ICT 教育、多職種連携教育 (IPE) の強化

～ ひとりひとりを大切にしながら ～

1) 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進

(1) 両学科協力 IPE の充実 (両学科)

・看護学科

新カリキュラムでは1年次に「専門職連携教育Ⅰ」として専門職連携の基礎を学び、2年次では「専門職連携教育Ⅱ」として専門職連携の構築を目指す。また、3年次は授業科目ではないが、各学年の学習進度や学習経験に応じて学びを積み重ねることができるように、教育内容の順序性を踏まえた合同演習を実施。学びを蓄積することで、最終学年では、対象の健康や生活を守る医療の提供に向けて、お互いの職種の専門性を活かしながら、対象の目標達成、問題解決に向けてより良い方法を検討するカンファレンスが実施できている。就職後の多職種連携・協働に活かす学びとなっていると考える。

・理学療法学科

各学年で後期に実施。多職種の役割について学ぶことができる。各学年でテーマを決めており、多職種の仕事の理解、連携しての患者介入、カンファレンスなどを実施。実習や卒後に向けた学習に役立っていると考えられる。

(2) シミュレーション教育の充実

・看護学科

1、2年生では、基礎看護技術の学習や専門領域の演習など各学年の学習進度や既習知識に応じた学習内容でシミュレーションを実施している。コロナ禍ということもあり、3年生は臨地実習を学内で補完することが多く、各実習目的や目標に応じた学習内容を検討し、教員全員で協力しながら実施した。また、高機能シミュレーター2台を継続リースすることで、40名の学生がシミュレーションを円滑に実施できている。

2) 学生満足度向上に向けた取り組み

(1) 教員の教育力向上

・看護学科

校内でのシミュレーションや日々の学習習慣の定着に向けた取り組みなど、学生の学修に創意工夫することが出来た。それを評価し、学科会議で、教員全員で検討することで、教育の質の向上につながっている。

法人で開催される中央研修には Zoom ではあったが、全員研修参加した。学生対応に関する内容であり、日々の教育に役立っている。その他対面での学会や研修会には参加できなかったが、オンラインやオンデマンドで参加した。

・理学療法学科

シラバスを半期ごとに見直し、国家試験及び臨床内容に即したものにしている。また、教員相互の講義評価を実施し、意見交換の場を設けている。

法人で開催される教育に関する研修会には全教員が参加している。また、学会等についても、ほとんどの教員が参加し、学科会議等にて研修報告会を実施することで情報を共有している。

(2) 教育教材の充実

・看護学科

今年度も継続して高度シミュレーター2台レンタルし、学内シミュレーションや看護技術の講義や演習、実習の代替としても有効に使用している。新カリキュラム「情報リテラシー」での電子カルテ利用方法の演習や、シミュレーションを充実させるために事例展開（電子カルテ）できるアプリを購入して活用している。e-ナーストレーナー（アプリ）を継続購入することで、動画やテキストを自由に使用できる学習のしやすさを提供した。

・理学療法学科

教材としては、今年度は骨模型を昨年度の1.5倍になるよう追加購入した。また、老朽化により使用が困難であったトレッドミルを購入した。

(3) 進路（就職）支援の強化

・看護学科

年々就職試験が早まっており、2年生の3月から下関市内の実習施設と、関連病院の就職説明会を計画実施した。それに伴い、教員やマイナビから就職ガイダンスを受け、就職先の決め方、個人の強みの表現方法、履歴書の書き方、手続き方法等指導した。未履修科目を後期に持っていた学生及び、再実習になった学生に対し、国家試験学習に集中し合格後就職活動するようにした。100%の就職率であったが、国家試験不合格2名は看護師としての就職はできなかった。

・理学療法学科

4月にお仕事サポートセンター職員による「履歴書の書き方」「面接での注意点」、青山商事職員による「スーツ着こなし講座」を実施した。6月には合同就職説明会（令和健康科学大学）を対面で開催し、177施設（前年159施設）のご参加をいただいた。また、9月には本校にて対面とオンラインでの就職説明会を開催し、83施設（前年60施設）のご参加をいただいた。

学年主任、担任、就職委員会を中心に、学生の就職活動状況の把握に努め、学科内での情報共有が十分に図られた。また、面接指導や履歴書指導・添削も全学生に実施するなど、昨年からの改善がなされた。

昨年度の反省を踏まえ、年度当初より学生へ就職活動を促し、12月中に100%内定を目指してきたが達成することはできなかったが、3月7日にて全員が内定した。国家試験への不安により就職活動を自粛する学生が数名は見られている。

次年度は12月までに内定率100%が達成できるよう、学生への促しを積極的に行う。

(4) 感染予防対策の充実（両学科）

感染対策設備として、学校入口にスタンド式の手指消毒を2台設置した。それにより、学生は手指消毒を行った後に校内に入ることが出来、感染対策行動が出来ている。また、サーキュレーターを教室内に設置し、教室を常に換気できるようにしている。各教室の机やドアノブなど、常に触れる部分はアルコール消毒を行えるよう、環境クロスを購入して使用している。

学生に対しては、体調管理表を用いて行動確認や体温、症状など体調把握を行いながら感染対策に留意した。教職員も同様に体温表を使用した体調把握を行った。また、感染対策マニュアルを作成し、感染者や濃厚接触者への対応を行った。

(5) 学校および学生寮の施設・設備の改善

学校内設備としては、学生更衣室の床の張替えとロッカーの入れ替えを実施した。また、1・2番教室、4・5番教室の床の張替えを実施し、明るく清潔な教室になるよう整備した。更に、各教室に据え置きApple TVを設置し、常にタブレット等の端末が映写できるように工夫した。

学生の安全対策として、3階～8階に合計12台の防犯カメラを設置し、モニターおよび記録できるようにした。

学生寮については、原則2人部屋としていたが、感染対策およびプライバシーと空間の確保として原則1人部屋へと変更した。

次年度は、先送りしていた外壁の補修および塗装、屋上の防水シートの張替えも実施予定である。開校して19年を迎えるため、様々な箇所の補修や全面改修などを検討していく。

3) ICT環境の運用

(1) ICT環境・設備の改善

据え置きのApple TVを実技教室以外の全教室へ設置し、常にタブレット等の端末が映写できるようにした。

学生との双方向の教育ツールとして、google class roomを導入した。情報伝達・課題配信・課題提出・採点等に活用している。

学習アプリとして、アプリ（モノグサ）を試験的に導入した。

保護者との連絡手段としてメールを利用していたが、アドレス変更や端末の都合により送信できない事案が発生したため、アプリ（スクリレ）を導入し、タイムラグの無い連絡ツールとして利用している。

(2) ICT教育力の向上

・看護学科

アプリを活用し、プレゼンテーションを行ったり、情報共有したり電子テキストを用いて教育している。またシミュレーションで看護技術の実施状況を動画撮影し、振り返りに活用するなど、教員はもちろん学生たちも自主的に活用している。看護研究の時間に文献検索方法を学び、また情報リテラシーでSNS活用方法を学んだ。授業評価やアンケート等はGoogle Formsを活用し、集計を素早く可視化できている。また、オンラインでの授業もタブレットを用いて、実施している。国家試験対策として、アプリを用いて、試験問題を解き自分なりに解答を導き出すよ

うに指導している。正答率や取り組み状況など確認しながら指導を行っている。

- ・理学療法学科

教育用アプリの活用、動画による実技テストの振り返り、小テストやアンケート実施など、タブレット活用による教育を継続した。遠隔授業の実施にもタブレットを活用している。タブレットの使用方法は限定的であり、もっと幅広く使えるよう、全国規模の展示会に教員が参加し、新しいアプリなどの情報収集を行っている。

4) 退学者抑制の取組み (進級率・卒業率 90%以上の実現)

(1) 学生の情報共有と問題の確認と問題に応じた早期対応

- ・看護学科

今年度の退学者は3月に3名(1年生1名、2年生2名)であり、退学率は2.5%(3名/118名)であった。今年度の退学者については、メンタル面の影響による体調不良が多かった。今後も定期的に面談を行い、学生の状況を把握し、必要時には学校カウンセリングの促しや保護者とも連携していく。退学者をなくすためにも看護を学ぶ楽しさを教授できるように、授業の工夫や学生の主体的な活動を支援していきつつ、学生個々の支援を行っていく必要がある。

- ・理学療法学科

今年度の退学者は8名(1年生2名、2年生3名、3年生3名)であり、退学率は4.7%(8名/170名)となり、前年度の9.7%(19名/196名)より改善がみられた。

担任を中心として定期的な面談、保護者連絡、スクールカウンセリングの促しを行っていた。また、成績不良者を少なくするため、学年やクラス、各教科担当教員による個別学習など工夫した。今年度の退学者については、成績不振を理由にする学生は少なく、進路変更を理由にする学生がほとんどであった。

改めて、オープンキャンパスなどの入学前に職業理解や学習の大変さについて説明するとともに、退学者「0」に向け、職業の魅力を発信する講義、修学意欲の高まるような講義や学内イベント、学習支援の質を高めることが必要である。

(2) カウンセリングの活用とカウンセラーとの連携

- ・看護学科

定期面談や必要に応じての面談で把握した学生の状況を相談し、学生にカウンセリングを勧めたりしている。また、カウンセラーと連携しながら学生のサポートも行っている。

- ・理学療法学科

必要に応じて学生面談の中で、カウンセリングを勧めるケースもある。カウンセラーとの連携は常に行っており、必要に応じて教員から、あるいはカウンセラーから相談を行えるようにしている。

(3) 保護者との連携

- ・看護学科

各学年で保護者会を定期的に開催し、学年のカリキュラムや進学就職等必要なことを報

告している。成績が低迷している場合など、適宜、担当から保護者に連絡し、必要に応じて三者面談を実施。保護者への連絡用アプリを導入され、必要に応じ活用するようになっている。

・理学療法学科

授業の欠課が続いたり、様子が変わったことがあったり、成績が低迷している場合など、適宜、学校から保護者へ電話連絡をするようにしている。

また、今年度から保護者連絡用アプリを導入し、スピード感を持って全体へ情報を発信するような事象については利用した。

(4) 学習支援強化

・看護学科

1年生は2年生のチューターから学習方法やノートの取り方を学び、看護技術も放課後を用いて試験前など指導を受けている。この体制をとってから2年生の自覚と縦のつながりができてきた。教員は指導している場面に参加し、助言したりして支援している。しかし、学力低迷者は学習習慣もなく、成績も上がらない為、担当教員がその都度面接し、指導している。3年生は模擬試験の結果から教員全員チューターをつけて指導してきた。夏期及び冬期にセミナーを設け、問題の解き方考え方等指導してきたが、学力低迷者ほど出席しなかった。

・理学療法学科

1・2年生については、時間外で小テスト・確認テストに加えて、教科担当教員による課題や口頭試問等を実施し、学習を促すことを行ってきた。学習効果は認められるものの、不十分な学生もみられるため、より個別性を重視した関りの検討が望まれる。

3年生については、臨床実習において教員による実習地訪問を実施し、学生個々の問題点を早期把握と解決に努めた。理学療法総合学習および国家試験対策では、成績不良者に対し早期より少人数対応のセミナーや個別指導を実施した。

(5) 自ら目指す職種に喜びと誇りをもつ学習内容と学校生活

・看護学科

1年生のガイダンスからビジョンゴールシートを作成し、継灯式や年度末に評価をして、確認した。2・3年生もそれを継続している。

看護学概論や看護管理の講義の中にキャリアデザインを取り入れ、認定看護師や専門看護師等教授している。

卒業生が来校した際、3年生に直接話をしてもらう時間を設けている。また病院の就職説明会の時に卒業生も参加し、看護師として大変なこと嬉しいことなど話してもらっており、在校生は良い刺激を受けている。

・理学療法学科

1年次の正規講義（リハビリテーションと理学療法Ⅰ）や2年次の正規講義（地域理学療法学演習）の中で、現場で活躍する現役理学療法士を招いて講義を行っている。また、1年次の講義において、自分自身の将来について考え、キャリアデザインを作成し、発表・提出を課している。日本

の医療・福祉・教育に関する情報を集め、ユニークなキャリアデザインも散見されている。

対人関係演習Ⅰ、臨床実習Ⅰ（見学実習）、臨床実習Ⅱ（地域実習）を新型コロナウイルスの影響下ではあったが、施設のご協力により3年ぶりに実施することができた。

今後、下関リハビリテーション病院などの関連病院や関連施設の理学療法士（できれば卒業生）による正規講義やセミナー等の企画を検討していく。

5) 国家試験合格率 100%実現に向けた取り組み

(1) 学年に応じた学習指導

・看護学科

国家試験全員合格は看護学科管理目標でもあり、4月初めの学科会議で各学年の教育計画を共有した。

1年生：新カリキュラムとなり「生活を営む人体機能演習」では、解剖生理学・病理学での既習知識を活用しながら人体模型やマインドマップを作成し、食事、活動、排泄等日常生活行動と併せて学習した。

入学時には国語力、数学、生物学のプレテストを実施。年度末には低学年模試を実施し、実力を確認している。

2年生：人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進を中心に繰り返し学習しながら学習習慣の定着とともに基礎学力の向上を図った。前期に低学年模試、後期に必修問題模試を実施。低正答率の学生は春期休業中に必修問題を解きながら繰り返し学習した。

3年生：4月に111回看護師国家試験を実施し、問題の傾向を確認した。年間の模擬試験計画を立案し実施。模擬試験の成績低迷者に対し夏期セミナーを実施。しかし、成績低迷者は再実習とも重なり、なかなか成績を伸ばすことが出来なかった。教員全員でチューターとなり、個別に指導してきた。学生の状況は随時学科会議内で共有し、冬期休暇中にもセミナーを実施した。成績低迷者のうち数名はセミナーに参加せず、1月からの学内での対策にも参加せず合格は困難であった。

合格率 93.1% (27名/29名)

・理学療法学科

年度初めから、国家試験対策についての年間計画やシステムについて検討した。

1・2年生：年間を通じて、解剖学・生理学を中心としたセミナーを実施した。また、グループ校統一模試を作成し、半期毎に実施した。さらに全国模試『医歯薬3科目模試』を年度末に実施し、知識の習熟度予定である。

3年生：昨年度からグループ学習を止め、個人学習と2～3人での口頭試問、教員による分野セミナー、個別対応を活動の主とした。

模擬試験後には「模擬試験セミナー」として教員による全問題の解説を実施し、知識の定着や症例イメージを伝えるなど工夫した。

成績不良者への対応については、10月から土曜・祝日登校を義務付け、教員による少人数対応を行った。成績不良者の選抜についても、学年主任、担任、役職者で最新の成績や学習への取り組み状況などを頻回に協議し、躊躇することなく見直しを行った。

例年に比べ、今年度は体調不良(主にメンタル面)のために継続的な登校が困難な学生が多く、夜間や日祝日の対応を拒否する学生も見られた。

第 58 回理学療法士国家試験合格率：100% (55 名/55 名) ※既卒 2 名含む

(2) 教員の指導力強化

・看護学科

中央研修や学会に参加を促し、積極的に参加している。今年度は Zoom での研修ではあったが、下記のテーマで 4 回教員全員が参加した。

①中央研修「シミュレーション教育研修～基礎編～」

5月28日(土) オンライン

令和健康科学大学 シミュレーションセンター長 増山純二先生

②中央研修「シミュレーション教育研修～応用編～」

6月18日(土) 令和健康科学大学 シミュレーションルーム

令和健康科学大学 シミュレーションセンター長 増山純二先生

③中央研修「あなたもできるファシリテーション実践編」

8月27日(土) 京都大学大学院 内藤知佐子先生

④一般社団法人 日本看護学校協議会 2022 年度中四国ブロック研修

「新カリキュラムの臨地実習が効果的に行えるために」

7月9日(土) 岡山済生会看護専門学校

⑤日本死の臨床研究会「第46回 日本死の臨床研究会 年次大会」

11月26日、27日 オンライン

・理学療法学科

教員間授業評価を実施し、互いにフィードバックを実施している。しかし、学科内での情報共有やベテラン教員に指導、他校の同じ教科担当者との情報交換や授業見学など、今後充実をはかっていく必要がある。

研修会参加については、新型コロナウイルスによる行動制限も緩和され、以前ほどではないが教育に関する研修会へ下記の通り参加している。

1	研修名：ICT 中央研修 (学校法人巨樹の会 リハビリテーション部門) 期 間：令和 4 年 8 月 22 日 (月) 対象：教員 12 名 内 容：Google 活用研修 講師：田中 善将 氏 (スクールエージェント)
2	研修名：中央研修 (学校法人巨樹の会 リハビリテーション部門) 期 間：令和 4 年 8 月 23 日 (火) 対象：教員 12 名 内 容：授業・学生指導で悩んでいること 講 師：玉利 誠 氏 (令和健康科学大学)

3	<p>研修名：中央研修（学校法人巨樹の会 リハビリテーション部門）</p> <p>期 間：令和4年8月31日（水） 対象：教員12名</p> <p>内 容：指導について難渋している学生への指導方法について（事例検討）</p> <p>講 師：上瀧 純一 氏（公認心理士、臨床心理士）</p>
4	<p>研修名：第20回日本神経理学療法学会学術大会</p> <p>主催：一般社団法人 日本神経理学療法学会</p> <p>期 間：令和4年10月15日（土）～16日（日） 対象：教員1名</p> <p>内 容：我々は何者か、どこに向かうのか ～決別と融和、そして創発へ～</p>
5	<p>研修名：第35回教育研究大会・教員研修会</p> <p>主催：全国リハビリテーション学校協会</p> <p>期 間：令和4年10月29日（土）～30日（日） 対象：教員3名</p> <p>内 容：臨床実習指導者のためのグループワークと発表</p>
6	<p>研修名：第57回日本脊髄障害医学会</p> <p>主催：日本脊髄障害医学会</p> <p>期 間：令和4年11月17日（木）～18日（金） 対象：教員1名</p> <p>内 容：脊髄障害に対する多面的かつ包括的アプローチ</p>
7	<p>研修名：第31回山口県理学療法学会学術大会</p> <p>主催：一般社団法人 山口県理学療法士会</p> <p>期 間：令和4年11月27日（土） 対象：教員2名</p> <p>内 容：理学療法士としての価値を高める</p>
8	<p>研修名：第16回日本リハビリテーション教育学会学術大会</p> <p>主催：日本リハビリテーション教育学会</p> <p>期 間：令和4年12月17日（土） 対象：教員1名</p> <p>内 容：国試脳を育むためのリハビリテーション教育学</p>
9	<p>研修名：日本物理療法合同学術大会2023</p> <p>主催：一般社団法人 日本物理療法学会</p> <p>期 間：令和5年2月18日（土）～19日（日） 対象：教員1名</p> <p>内 容：物理療法の評価と治療 ～測る・理解する・変える～</p>
10	<p>研修名：第8回日本栄養・嚥下理学療法研究会学術大会</p> <p>主催：一般社団法人 日本理学療法学会連合</p> <p>期 間：令和5年3月4日（土）～5日（日） 対象：教員1名</p> <p>内 容：栄養・嚥下分野でこれから目指すチームビルディング</p>
11	<p>研修名：中央研修（学校法人 巨樹の会 リハビリテーション部門）</p> <p>期 間：令和5年3月15日（水） 対象：教員12名</p> <p>内 容：協働学習について</p> <p>講 師：玉利 誠 氏（令和健康科学大学）</p>

(3) 自己学習力の強化

・看護学科

学生に対しては1年次より学習の仕方の説明を行い、適宜確認し指導している。授業に関してもグループワークでの発表だけでなく、個人ワークの発表など個人の学びを発表する機会を作っている。それと終講試験や模擬試験の結果とリンクさせ、学生に学習継続の必要性を指導している。

教員に関しては、学習意欲の強い教員なので、先に記したように外部への発表の機会をこれからも作っていききたい。また今後は教員間で授業評価できるように授業参観の機会を作るなど検討していく。

・理学療法学科

能動的な学びを促すために、各科目において課題を提示する、ICT技術を活用するなど工夫した。真剣に取り組む学生も多くみられたが、取り組みが不十分な学生も少なくはなく、そのような学生への能動的な学習を促すことが困難であった。

教員の意識改革、各講義での工夫、学習支援対策などで成功体験を積み上げていく体制やシステムを構築していきたい。

6) 定員充足の取り組み

(1) インターネット、SNS等による情報発信の強化

高校生の特徴を踏まえ、昨年度の後半よりWebでのバナー広告およびジオターゲティング広告を実施し、反応が良好であったため、今年度も継続した。また、Twitterのフォロワー数増加を目的として提案のあった企画を実施した。その結果、フォロワー数が300程度から12,000まで増えた(現在10,000)。Twitter、Instagramの更新頻度を高めるとともに、TikTokを開設し、学生からの意見を参考にしながら運用した。

(2) 高校・大学訪問の強化、ガイダンスへの積極的参加

高校内ガイダンス42件、会場ガイダンス23件に出席し、575名の高校生へ職業理解・学校説明・オープンキャンパス情報・入試情報などについて話をした。

高校訪問については、4月・5月・7月・10月・1月に山口県内および北九州市内の約120校を訪問し、新入生および在校生の状況報告、オープンキャンパス情報や入試情報の報告、指定校推薦書の持参、入学前課題の持参などを実施した。4月・7月・10月には、広島県西部・島根県中部から以西の約50校にも訪問している。

(3) 高専連携の強化(部活支援活動、キャリア教育協力)

8月に、下関市近郊の高校女子バレーボールの部活支援活動を行った。3月には西日本の高校男女バスケットボールの大会へ参加し、部活動支援を行った。選手からは体の使い方やトレーニング方法、テーピングの使い方についての質問があり回答した。また、疼痛を訴える箇所の確認とその対処法についても指導を行った。各校の顧問や教諭からも、怪我に対する予防方法やトレーニング方法について質問を受けた。

3月14日（火）には長府高校より卒業生講話の依頼があり、今年度の卒業生2名が講師として講話を行った。

7) 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進

(1) 地域ボランティア活動参加への促しと表彰

カリキュラムの一環として、地域の清掃活動を実施した。下関市からの依頼があり、海峡マラソンにも29名の学生がボランティアとして参加した。

新型コロナウイルスの影響により、ボランティア依頼については未だに少ない状況が続いており、緩和され次第、社会貢献等に関する表彰を実施していく。

(2) 各学年清掃活動の継続

今年度は、授業の一環で1年生全員による地域清掃活動を実施した。

8) 業務効率化の促進

(1) 業務効率改善に向けた職員の意識の改善

・看護学科

各教員が役割の目的や内容など確認できたが、学年担当となると、その責任感で多くの業務を抱え込んでしまう傾向にある。できるだけ皆で分担できるように学科会議で現状の情報共有を図り、対策を検討している。加えてコロナ禍による影響や育休などで即戦力の低下があるが、皆がカバーしている。調整力として力がついてきたが、時間内は学生指導優先で、自分の講義準備やまとめなど後回しになり、残業時間が増えている。コロナ禍でのZoom対応や臨地実習指導、国家試験対策などもっと整理して、人や時間、物を調整できる能力も高めたい。

・理学療法学科

学科会議等で常に「働き方改革」という言葉を周知することで、時間内に業務が終わるように工夫するという意識は高まっている。しかしながら、国家試験受験が近づくにつれ、学生対応のため残業時間が増えており、改善困難な場面も見られる。次年度からは、職員数が減ることを踏まえ、より高い意識を持ちながら、業務分担などについても検討していく。

(2) 学内業務の見直しと適切な業務分担

・看護学科

前述したように、学科会議内で状況報告し情報は皆で共有し、対策を考えている。

令和4年度の役割分担を決定する際、教員から前向きな意見が出て、役割を分担することが出来た。

・理学療法学科

今年度より、業務負担が同程度になるよう、また、職員の業務能力や長所を生かせるよう各委員会や係の担当者を変更した。しかしながら、今年度が申し送り期間でもあるため、職員によつての偏りが見られている。

(3) 効率化に伴う設備の充実

- ・看護学科

iPad やプロジェクター、シナリオの2台レンタルなど、必要性を認められ、活用できている。使い方を工夫することで時間の管理もでき、意欲にもつながっている。

- ・理学療法学科

パソコンの買替を実施し、書類作成やデータ集積などの業務効率は高まった。また、オンラインでの講義も可能となったため、学事が遅れることも少なくなり、様々な業務に支障をきたすことが少なくなっている。

- ・事務

Google ドライブを活用し、スケジュールやチャット機能で情報の共有化がし易くなった。

～新しい生活様式に適った教育環境の整備と職業実践教育の推進～

1) 入学定員増員、増築に係る工事、必要な教育器具・機材、備品の購入

- ・A棟（新築棟）増築工事、B棟（既存棟）改修工事、外構工事を行い、それに伴う中枢部（教職員室）移転、各教室へのAV機器をはじめとする設備備品の整備を行った。
- ・B棟備品においても画像不良の声が上がっていた天吊液晶プロジェクターの交換、電波法関連法令に触れるワイヤレスマイク買換えなど行った。

2) 環境の改善

- ・学生の昨今の男女比が以前と比べ変化し、定員が増員することと合わせて女子学生ロッカーが足りなくなることが予想され、ロッカー室の改修を行った。それにより今までの男子学生ロッカーの数が114台から120台へ、女子学生ロッカーの数が66台から90台へ増やすことが出来、事なきを得た。
- ・換気が重要視される中、B棟の窓の戸車劣化で窓の開閉が困難な箇所が多数あったが、増築改修工事で足場を組んだタイミングで窓の戸車交換も行い、重くて開きづらかった窓がスムーズに開閉できるようになった。
- ・同じく足場利用で雨漏りに係る外壁改修工事を行い、雨漏りが改善。外れていた屋上ハト小屋扉の修理も完了している。
- ・A棟学生サロンでは授業で活用するiPadやApplePencilの充電ができるようコンセントを多数配備した。
- ・昨年のOTに引き続きPT昼夜においても評価機構の受審を終了し適合の評価をいただいた。

3) 学外学習機会の確保

- ・指定規則改訂により実習指導者条件に臨床実習指導者講習会の受講が必須となった。講習会の受講機会を増やす協力をすべく講習会を今年も学校独自で開催した。
- ・学生の数が増えることから新規で実習施設の登録数を増やす必要があり、施設登録を行った。今後も継続して行う。

4) ICTを活用した教育の推進

- ・国家試験前にはコロナ感染予防の為に今年も遠隔で国家試験対策を実施した。
- ・Google Workspace for Educationを利用して学生とのコミュニケーション、学習サポート、指導の効率化を行った。

5) 効果的な広報活動の展開

- ・令和4年度入学生にタブレットとタッチペンシルを贈呈しICT教育に対応できるような体制を整えた。
- ・オンラインオープンキャンパスを定期的に組み込み、どのような状況においても安心して参加できる体制を整えた。

～大学との連携と閉校に向けた整備～

1) 令和健康科学大学との連携

令和健康科学大学の開学及び令和6年3月の本校と福岡看護専門学校の閉校に向けハード・ソフト両面でスムーズな移行ができるよう、月1回の三校連絡会議を開催し、教室の使用や感染対策等情報交換を行い、調整を図ってきた。また、教育設備・備品については令和健康科学大学への転用手続きは完了し、2年間は共有することとなっている。

2) ICTを活用した教育に充実に関して

- ①実習の進捗状況、指導者との関係性、メンタルの管理などをGoogleformsを用いて行った。
- ②コロナ感染拡大で実習が中断された関東地区の学生に対し、zoomを用いて面談を実施しメンタルの安定を図るとともに、教材などを配信して学習支援を実施した。
- ③4年度は基本的には対面授業を実施したが、台風の時やコロナ感染で登校できない学生に対してはzoomを用いて授業配信を行い、教育の機会を確保した。そのため、学事計画通りに進行することができた。

3) 退学防止について

運営会議や両学科の学科会議で学生の情報共有を行いながら、そして両学科が協力し問題のある学生に対し、面談の実施や学習支援など早期から関わり退学防止に努めてきた。しかしながら、入学前から抱えていた精神面の問題や強い他業種への思いなどから数名の退学者が生じてしまった。

4) 国家試験対策について

各学科、計画的に国家試験対策を実施した。セミナー、グループ学習、少人数でのレクチャー、個別学習などを実施した。グループ学習は基本的に学生同士で行ったが、担当教員により学習の進捗状況把握や学習方法指導を行った。12月からは成績下位学生の学力向上とその他の学生への負担軽減を目的に教員による少人数指導を実施した。結果として、新卒学生の合格率はPT学科96.8%（全国新卒94.8%）、OT学科97.6%（全国新卒91.3%）と両学科ともに全国平均を上回る成績を残すことができた。

最終前学年に対しても国家試験対策を意識したグループ学習を早期より実施してきた。実力を確認するグループ統一模試の前にもグループ学習に取り組み、全体的に学習意欲の向上、成績の向上がみられている。

社会に貢献できる人材育成 ～ カリキュラム改正による教育内容の充実 ～

1) 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進

【看護学科】

(1) シミュレーション教育の充実

各学年、学びの進度に応じシミュレーション教育を取り入れた。1年生は基礎看護技術においてタスクトレーニングを実施。2年生・3年生は、臨地実習における実践活動外学習のなかで、臨床で遭遇する状況や状態を教材として、医療行為やケアを経験し、振り返り、検証することを学ぶことで充実したシミュレーション教育が行えた。

(2) 看護教員の教育実践力向上

関連校の中央研修として「シミュレーション

教育研修(基礎編・応用編)」「ファシリテータースキル(応用編)」「ICT教育について」に参加した。対面での研修も増え、新たな知識の開拓と教育に携わる意欲の向上に繋がった。研修の学びは教育実践力の向上に繋がっている。

【助産学科】

助産過程・技術学や、臨床推論などの講義内や、COVID-19で臨地実習に行けず、学内代替実習になった際に、状況を設定しながらのシミュレーション教育に取り組むことができた。また、助産院と連携を取り、院内で腹部モデルを使用して超音波診断の演習を現場の助産師とシミュレーションすることができ、より臨場感ある実習をすることができた。

今年度4月より1名教員が増員され、新生児蘇生法の認定研修を受講。5月の助産師学会に、教員全員参加し、新たな知識の開拓に繋げることができた。また、アドバンス助産師の認定更新や、新規申請に必要な研修を受講するなど自己研鑽し、教育内容の充実が図れるように努めることができた。また、中央研修に参加し、臨床推論の講義の中で実施するシミュレーションのシナリオの作成・実践をし、講義に活かすことができた。

2) 学生満足度向上に向けた取り組み

【看護学科】

(1) 学習環境の整備

卒業時満足度調査の結果として、「パソコン・インターネット等の情報設備や利用環境に満足している」という項目について、令和3年・4年と連続し満足度が上がっていた。令和3年度に学内のWi-Fi環境を整えたことや、学年全体で授業が受けられるよう、教室にTVモニターを設置する等、学習環境を整えたことが影響していると考えられる。また、入学時より単位について「学生自身が学習する時間を含めている」ことを説明し、学生自身が主体的に学習時間を確保し、積極的に学ぶ姿勢が身

に付くよう支援した。

ハード面・ソフト面において学習環境の整備に努めることができた。

(2) 教育教材の充実

授業において、教員の看護体験や学生の看護場面・生活体験等を「教材」にして興味・関心を引く授業展開を行った。また、実践能力を育成するためにシミュレーターを活用した学習を行った。現時点で

過不足の教材はなく充実が図れている。

(3) 学生との援助的関係の確立

学生が、相談しやすい環境づくりや、面談を実施し、学生が安心して学校生活を送れるように関わった。実際に卒業時満足度調査の結果として「たくさんの先生に助けられて、カウンセリングもしてもらって、看護師になれそうです。」「A先生の生徒に寄りそうメンタルケアが支えになった。」という声が聴かれ、学生との援助的関係は築けている。今後も、学生との良好な関係が築けるように、学生と共に在る、学生と共に成長していくという風土をつくっていきたい。

【助産学科】

様々な健康教育実施のための図書が充実し、助産学研究ではメディカルオンラインによる文献検索の利用率も高く、学習環境が整備されており学生の満足度は高かった。

CIVID-19の感染拡大を予防するための、必要時オンラインでの講義の聴講に対応できる環境を整えることができ、学習環境は効果的に整備されている。また、実習や国試前に、COVID-19感染対策のため、学内のゾーニングすることで、学生が安心して学習できる環境を提供できた。

ウルトラシムのモデル人形のパトリオットを修理し、妊娠期の超音波診断の学内演習を充実させることができた。実習前の技術練習では、内診シミュレーターや搾乳

モデルなどを利用し、助産技術の向上に役立てることができている。また、内診シミュレーターの模型を用いての講義は、分娩期のイメージ化に繋げることができた。COVID-19の影響により、臨地実習で褥婦や新生児への支援が難しい実習場所もあり、学内の様々なモデルを使用し必要な技術・支援について演習することができた。

入学時に個人面談を実施し、チューター制を中心に学生支援を実施。就職や個別相談については、相談しやすい教員へ相談できている状況であった。メンタル面で気になる学生については、カウンセリングの利用など勧めたが、利用する学生はいなかった。教員の学生に対する支援、サポート体制、就職支援の満足度が低く、学生が望むサポート体制に関しては十分に行えていなかった。更な

る教員間の情報共有、一貫した指導、学生へのこまめな声掛け、計画的な就職活動の支援の検討をし、学生が安心して教員へ相談できる態勢を整えていく必要がある。

3) ICT環境の運用

【看護学科】

(1) 共同学習としてのICT教育の推進

ICT教育に向けて、教員一人に一台iPadを支給したが、積極的に授業開発に取り組むことはできなかった。令和5年度よりeテキストが導入され、本格的にICTを活用して教育活動が行われる。iPadを活用し、リアルタイムに学習内容を共有し、学習内容のフィードバックを行い、学習に対する

興味・関心を高め「わかる授業」「楽しく学ぶ」を実現できるように努めていく。

(2) ICT 教育力の向上

ICT 教育力の向上には至っていないが、教育力の向上の一つとして ICT の活用も必須であることを教員間では理解している。ICT を活用することでの教育効果を明確にし、Google classroom の活用、スキル向上、医療分野における ICT 活用の実際を把握し、教育内容を充実していく。

【助産学科】

グループ演習時、iPad を用いて動画撮影し、客観的に技術や対象とのかかわり方の振り返りを実習に活かすことができた。今年度より、助産過程方法論での紙上事例や、助産自立・専門実習の記録について、パソコンを利用することで、多重課題となる時期や、分娩期実習との平行時の手書き記録での負担感の軽減に繋がった。個人情報保護についても、各自で管理でき卒業前にデータの削除まで実施できた。

COVID-19 のため、対面でのマザークラスが出来ず、オンラインでのマザークラスを実施し、ハイブリッド型の指導方法の学習の機会となった。

G メールや、Google ドライブなどを利用して、学生との情報共有や、伝達などがスムーズにでき、ICT の運用方法も効果的に実施出来るようになってきた。

国試前・後の COVID-19 感染対策で、オンラインを利用した国試対策や振り返りをするなど ICT を効果的に使用することができた。教育や運営に関して様々な活用方法に取り組むことができた。

4) 進級率・卒業率向上への取り組み

【看護学科】

(1) 職業的アイデンティティの確立

入学時より、看護師になるという目的意識を持つためにガイダンスで「なりたい看護師像」を言語化し、1 年次の目標を設定した。また、各学年、カリキュラムの中で、授業を通して職業的アイデンティティを高める取り組みはできた。

(2) 保護者との連携

必要時、保護者への連絡や面談を行い、情報共有を図った。

(3) 各学年、年 1 回以上の保護者会の実施(オンラインを活用)

各学年、年 1 回以上の保護者会を実施した。

(1)、(2)、(3)の取り組みを通して、進級率・卒業率向上への取り組みができた。

【助産学科】

各科目・実習を通して、助産師としての役割や責務について学ぶことができていく。臨地実習で助産師の関わりの実際を見学することは、助産師としての魅力ややりがいに繋がっている。また、卒業前に特別講義や職能団体の紹介をすることで、専門職業人として自己研鑽の必要性を感じる機会となっている。

保護者との連携は学生を介して行うことが多いが、体調不良や、メンタル的に不調の学生については、その都度保護者と連携を取り、状況報告し、迎えに来てもらう、オンラインでの面談をするなど、状況に応じた連携をとることができ、16 名全員卒業した。よって、卒業率向上への取り組みはできた。

保護者会を開催することはなかった。成人学習者で有資格者ということを前提とし、保護者との連携

は、学生を介して行っていくことができた。

5) 国家試験合格率100%に向けた取り組み

【看護学科】

(1) 1年次からの積み上げとなるカリキュラムの構築

入学時より国家試験について説明。模擬試験終了後には、振り返り学習の方法、解説書の見方、周辺学習の方法を伝え、主体的に学習できるよう支援した。しかし、学習習慣が身につけていない、集中力が持続しない学生がおり、未履修科目を抱え進級する学生が複数いた。個に応じた学習支援の在り方を検討していく必要がある。2年生は前期に朝学習の時間を設け、国試対策書(正文集)を活用し学習した。意図的に時間をつくることで、学習スタイルが身に付いた。後期は、実習科目に準じ、主体的に学習に取り組む学生が多く見られた。一方で、1年次に加え、2年次も未履修科目を抱え3年次に進級する学生もおり、学生自身が、危機感を抱き、着実に単位を修得していけるよう介入していく必要がある。3年生は、学生個々に応じた学習支援を行った。模擬試験の解説、夏期・冬期セミナー、特別講義、小集団での学習会を実施した。国家試験が近づくにつれ、成績が上がり、モチベーションも上がった。しかし、一部の学生は、最後まで学習支援を嫌がる、集中力が保てない、学習会で居眠りをする、無断での遅刻・欠席があり、学習支援に困難を要した。3年間を通して国家試験対策を行うことが必要であるが、何より、学生が主体的に本気モードで学習に取り組むための方法を検討していく必要がある。よって、学生の要因を分析しカリキュラム評価を徹底しておこなっていくことが十分にできていない。

(2) 修学指導への取り組みの強化

教員間で学生個々の履修状況を把握し、確実に単位が修得していけるよう支援すると同時に、保護者へも状況を説明し把握してもらった。また、学生個々の課題を早期にとらえ介入することができた。

【助産学科】

カリキュラムの構築については、基礎科目から専門科目へ進めていけるよう構築しているが、困難な場合は基礎を想起させて他の科目との関連や学びを意識させながら講義を進めている。

国家試験に向け、入学時より終講試験にもつなげた科目別での国家試験対策、12回/年の模擬試験、夏期・冬期の強化学習など、学生と話し合いながら国家試験対策を実施。国家試験前には感染予防のため、リモートでの学習を実施。成績低迷者については、苦手分野を分析し、チューターを中心に全教員で学習支援を行う。学生アンケートより、チューターにより関わりの差があるとの意見もあり、学生へ関わり方を確認しながら、細やかな声掛けをして心理的支援を充実させていく。第106回助産師国家試験に全員合格できた。よって、国家試験合格率100%に向けた取り組みはできた。

6) 定員充足への取り組み

【看護学科】

(1) 学生募集、広報活動の強化

学生募集活動として、高校訪問と学校説明会及びオンライン学校説明会を実施した。しかし、受験者数は減少し、定員充足に困難を要した。再度、高校訪問や街頭でのチラシ配布・ポスティングを実

施。追加入試(後期Ⅱ・Ⅲ、特別選抜)も実施したが、定員充足には至らなかった。今後も予測される看護大学への進学や18歳人口の減少を考慮し、学生募集活動の工夫・強化を行い、選ばれる学校を目指す必要がある。1人でも多くの学生を確保するためにも、教育内容を充実させていきたい。また、ホームページの更新やInstagramの投稿を充実させ、本校の魅力を発信し、学生募集につなげていきたい。

(2) 社会の状況にあわせた多様な学校説明会の実施(オンラインを活用)

今年度、対面型学校見学会を1回、対面型オープンキャンパスを5回、オンライン学校説明会を2回実施した。対面型においては、ボランティア学生の協力を得て、チルタイムや看護技術体験を実施した。在校生との関りを通して、実際の学校生活や入試対策等が理解できたという意見が多く聞かれた。また、在校生と教員とのやり取りを見て、学生と教員との距離の近さに安心感を抱き、入学したいという意見も聞かれた。次年度、参加者の多様なニーズに対応した学校説明会の開催をめざしていきたい。

(1)、(2)を通して、定員充足に至っていないのは、受験生のニーズに応じた募集活動の取り組みができなかった。

【助産学科】

九州中心のパンフレット・募集要項の郵送、入学者の卒業校への電話訪問の実施、オンラインでの学生との座談会を実施。資料請求数は、減少していたが、昨年度とほぼ同様の受験者の確保はできていた。座談会参加者は昨年より増加しており、オンラインでの座談会は効果的であった。

実習前ということもあり、COVID-19感染予防の為に、オンラインでの座談会を実施する。学生と直接話す機会を設けることで参加者の満足度にも繋がり、学校生活のイメージも出来る。校内見学や、施設・設備の見学を希望している受験者もいるので、COVID-19の感染状況により校内見学も再開していきたい。

助産師を目指す受験生は多く、定員充足はできている。

7) 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進

【看護学科】

(1) 地域清掃(通学路の清掃等)の継続

社会貢献・地域貢献の視点で、通学路の清掃を1年生が1回実施できた。次年度も継続し、学生自身が多様な感性で地域に貢献できる力を養っていきたい。

(2) 地域主催のイベント参加への推進

1年生が基礎科目「地域の暮らし」の授業の一環としてフィールドワークを実施した。地域主催のイベントへ参加し、体験学習を行った。地域はどのような人々で構成され、どのような環境で生活しているのか、人々と触れ合うことで、地域を知り、地域の中の看護学校として地域貢献へとつながった。また、学生の参加や活動が社会資源の一助となった。

【助産学科】

通学路の清掃は実施しておらず、実習施設であるみずまき助産院の大掃除を2回/年実施している。COVID-19感染拡大防止のため、助産師会の地域での研修会イベントは開催がなく、参加することはできなかった。

看護学科、助産学科ともに社会貢献に関しては認識しているが、教員側からの発信が少ないため推進はできていない。

8) 業務効率化の促進

【看護学科】

(1) 職場環境の改善

各教員が、自らの役割に責任を持ち業務を遂行できている。教育に関する事、業務に関する事は、学科会議で討議し合意形成に至っている。また、計画的に有休が取得できている。

(2) 業務内容に応じた勤務形態の多様化

業務内容に応じた勤務形態を実施しており、限りある時間の中で、教育の工夫を行い、終業時間内に業務が終了している。

(1)、(2)を通して、業務効率化の促進はできている。

【助産学科】

テストや実習終了後のアンケートなどの回答をコスモドリルや Google アンケートを作成し、業務の効率化を図ることができた。

学習支援のため、放課後での対応が必要な時は、時間差勤務や勤務形態を工夫して時間外勤務とならないように工夫した。しかし、実習中は分娩期の実習での時間外勤務が 30 時間を超えることが続き、ワークライフバランスが図れるよう、業務改善していきたい。

朝のミーティングで、業務や新人教員への支援・業務内容・量の調整をしながら運営していた。しかし、定期的な教員会議ができておらず、教育内容の十分な検討、情報共有や連携不足が考えられた。教育方法の見直しをしていくためにも、教員間での教材研究・教育方法についての意見交換や、情報共有をしていく必要がある。実習については、電話や教員間の申し送りノートを活用して、情報共有できるよう努めたが不十分な事もあった為、指導内容や調整内容を詳細に残し、次の担当者は確認したうえで一貫した指導にあたるようにしていく。

教員のメンバー構成の変更により業務内容や時間に様々な調整を図っていったが、業務の効率化には至らなかった。

9) 就職支援、キャリア支援

【看護学科】

(1) 就職先選択の考え方や将来ビジョンを考えるための体制作り

1 年生は、入学時に進路についてのアンケートを実施し、半数近い学生が進学(助産師)を希望していた。その後、キャリアデザインの授業を受け視野が広がり、自分の将来について考える機会となった。

2 年生は、実習が進むにつれ、進学への気持ちが強化する学生、就職したい病院を明確にする学生が増え、目標をもって学習に取り組むことができた。年度末に関連病院の就職説明会を実施することで、就職先を具体的に考える機会となった。

3 年生は、進路についてアンケートをとり面談を実施した。就職は 60 名おり、そのうち関連病院への就職は 41 名(福岡新水巻病院 11 名、新小文字病院 10 名、新行橋病院 11 名、所沢明生病院

3名、新久喜病院3名、東京品川病院1名、香椎丘リハビリテーション病院1名、青山リハビリテーション病院1名)関連病院就職率は68%である。助産学科への進学が3名であった。よって、就職支援、キャリア支援はできた。

【助産学科】

就職活動オリエンテーションを実施し、4月中旬以降で面接し、就職先の具体化を図っている。自分の目指す助産師像を具体化させ、病院見学・面接の計画を立てていく。卒業生の就職先・試験内容の記載されたファイルや、実習施設からの募集、郵送された募集要項の提示、先輩からの情報収集と情報提供を実施。関連施設への就職状況は、東京品川病院へ1名、実習施設へ3名就職した。よって、就職支援、キャリア支援はできた。

武雄看護リハビリテーション学校

全校一丸となりブランド化を図り、魅力ある信頼される学校創りに邁進する
～全てにパーフェクトを目指して、活力と活気ある学校に～

1) 医療人としての人間力育成

学校長による講話や日々の活動で学生に医療人としての心構えを指導しており意識付けが出来てきている。来校者に対しての挨拶や立ち振る舞いなども礼儀正しく振舞うことが出来ている。

全員（退学者を除く）が進級することが出来、皆勤賞受賞者数も多かった。学校行事（卒業式・入学式）において学生が司会進行をするなど学生の自主性を育成している。

先輩が後輩に勉強を教えるなど先輩後輩との絆も強く、また国家試験前には多くの卒業生が後輩の応援に来校してくれた。

皆勤賞受賞者数

理学療法学科) 1年 23名 2年 11名 3年生 4名 3ヶ年皆勤賞 4名 精勤賞 12名
看護学科) 1年 19名 2年 11名 3年生 3名 3ヶ年皆勤賞 3名 精勤賞 4名

2) 進路保障 100%達成

進路：10年連続 100%を達成することが出来た。学校長には進学希望者の小論文指導まで繰り返していただくなど教職員全体で履歴書や面接指導を実施した。

関連病院への内定人数：理学療法学科 24/38 63%
看護学科 25/41 65%

3) 国家試験全員合格

1年次からの指導の積み重ねと全職員が一丸となり、各学生の成績分析を随時行い、臨機応変に学習指導計画を立て実施していった。また卒業生や新武雄病院、ご家族など多くの方々からのご支援を頂き学生たちの意欲向上に繋がった。

国家試験合格率：理学療法学科 (38/38) 100%、看護学科(39/40)97.5%

4) 退学・休学をなくす

今年度退学者は

理学療法学科 1年生 1名 (進路変更)、2年生 1名 (進路変更)、3年生 0名

看護学科 1年生 0名、2年生 1名 (進路変更)、3年生 0名であった。

担任を中心としたこまめな学生支援を行い、随時スクールカウンセラーや関係機関、保護者との連携を図った。

保護者へメール配信できるシステムを構築し必要に応じて連絡を行った。

また理学療法学科では3月に対面での保護者会を開催し直接コミュニケーションを図ることも再開出来た。

5) 教職員の資質向上

毎日の朝礼時や会議において学校長先生より学生指導に必要な事項や業務の在り方について講話していただいた。そのため学生第一とした教員としての責務について共通理解ができている。今後はさらに優先順位を踏まえスピード感のある対応を身に付けていく必要がある。

職員の研修は、県の補助金も活用しながら積極的に参加し自己研鑽に努めている。教育力向上のための授業評価体制は定着できているが、クラス担任として生活指導力などの資質向上に少し課題がある。

6) 魅力ある指導実践

ICT環境を有効活用した講義や学習指導を実施した。感染や自然災害時にもすぐオンライン対応できる状態となっている。

教育の充実のため新しい教材も一部導入した。

看護学科と理学療法学科という2科が存在する本校の特徴を生かし、両科合同授業や理学療法学科教員による看護学生への講義などを実施し、職種間連携を図ることが出来てきている。

学習支援も科目外時間を活用しながら早めに実施したことで、再試験対象者も大幅に減少した。定着率の上昇にも繋がっている。

再試者数) 理学療法学科

令和3年度 1年生 87件 2年生 39件 3年生 1件 合計 127件

令和4年度 1年生 14件 2年生 36件 3年生 4件 合計 54件

看護学科

令和3年度 21科目 合計 65件 令和4年度 20科目 合計 47件

7) 高校との信頼構築で定数確保

コロナ禍の中、感染対策を講じながら学校説明会やオープンキャンパス、高校訪問を対面で実施し本校の強みや資格取得について伝えることが出来た。しかし、前年と比較して参加者が減少した。また、「佐賀県専修学校部会」にも参加し高校生等の情報収集に努めた。各高校へパンフレット、募集要項に加え、今年度も卒業生からのメッセージや近況報告を郵送するなど、本校の雰囲気や良さがより伝わるような工夫を行った。高校教諭の方々の来校も多く、可能な限り学内見学や学生の生活状況を直接見て頂いた。

日々の生活状況はホームページやSNSを通じて情報を頻回に正確に配信している。

看護学科は早めに定員へ達したため、前期入試で募集を終了した。理学療法学科は特別入試を追加実施し定員確保に努めたが最終的に35名となった。

志願者数) 理学療法学科 39名(前年61名) 入学者 35名

看護学科 67名(前年62名) 入学者 41名

8) 地域・行政と連携したボランティア活動

コロナの影響もあり以前よりもボランティア募集は少なくなったが、学生たちが自主的に清掃活動を実施するなど、積極的にボランティア活動を行った。看護学科では新カリキュラムにおいて社会福祉協議会と連携しボランティア活動を実施するなど地域に開かれた学校づくりを行った。

また新武雄病院での献血にも多くの学生（81名）が協力することが出来た。

9) 教育費等の削減と業務の効率化

看護学科、理学療法学科ともに近隣の実習施設の獲得を行った。

令和4年度の購入計画書での教育について、理学療法学科では脳断層モデルや物理療法器具などを購入し講義や国家試験対策の際などに活用している。

施設設備では、在宅看護実習室の外壁ゴムパッキンの劣化による雨漏りのため5月頃に修繕を行った。また、3月の年度末には職員・学生駐車場の一部整備を行った。

消耗品について、令和4年度佐賀県私立学校運営費補助金「特定経費枠」にて

約400,000円程度の補助金で消耗品の一部である新型コロナウイルス感染防止対策のため手指消毒・アルコールタオル・ペーパータオルなど、また今年度は職員や学生の校内感染対策のため抗原検査キッドの購入に充てた。

公費の削減については、教職員の意識改革が必要であり、管理者の指導の在り方も考えなければならない。

また、コピー機のカウント料について

令和3年度 1年間カウント料 約3,522,073円

令和4年度 1年間カウント料 約2,948,304円

前年度より 573,769円減

令和4年9月の事務・リハ側の複合機を入替し、枚数はそんなに変更はないもののカウント料の単価が若干安くなったため前年度より83.7%減少した。

会議や情報をドライブで共有化するなどICT化を進めたことによりペーパーレス化を図ることが出来てきている。

令和4年度電気料金（学校分）

【参考】令和2年度電気使用量 232,158Kwh 電気料 4,657,088円

令和3年度電気使用量 238,960Kwh 電気料 4,632,762円

令和4年度電気使用量 220,971Kwh 電気料 5,071,591円

過去3年分を比較して令和4年度は物価高騰の影響により前年度に比べ9%の増になっている。

九州電力の価格高騰に伴い、学校法人本部にて電力会社の見直しを行い

九州電力単価759円/Kwhから香川電力456円/Kwhに変更になっている。（資料参照）

しかしながら、1月に最大需要電力150KWを出してしまっているので、今後も

使用していない施設・教室での電気・空調の使用をなくす。適正な使用を徹底していく。

令和4年度は「佐賀県私立学校物価高騰対策支援事業費補助金」が実施されたため、学校及び学生寮の電気代・ガス代の補助額997,000円が交付された。

10) 学校環境整備

学生寮の備品買い替えや Wi-Fi 整備など学生の生活状況を把握しながら随時実施した。学校駐車場に関しても水害の影響で不整地となってしまったため3月に整備を行った。より多くの学生が駐車場を利用できるように配置検討も行い新年度より変更している。(学生利用台数は100台と昨年度よりも20台分増加)

自然災害など緊急時の連絡体制も徹底する必要性がある。

学生の住居(アパート)の確保と交通手段

(女子寮)

令和3年度 レモンガラス14部屋 第2寮(なないろ)12部屋 26部屋 51名入寮

・家賃負担	126,000円	プラス
水道光熱費	電気代 2,615,504円・ガス代 1,073,923円	
合計	3,689,427円	令和3年度学校負担分

令和4年度 レモンガラス13部屋 第2寮(なないろ)12部屋 25部屋 50名入寮

・家賃負担	444,000円	プラス
水道光熱費	電気代 2,693,753円・ガス代 1,262,309円	前年度比17%増
合計	3,956,062円	令和4年度学校負担分
	電気代 前年度比4%増	ガス代 前年度比 17%増

令和4年度は寮生の人数が3名減り、2部屋分の寮費が減収となっている。

今後は光熱費高騰を踏まえ、学生へ節電の意識づけを徹底していく必要がある。

また、第2寮にはネット環境を整備し、災害時等でのオンライン授業を活用し学生が勉強しやすい環境を整えている。

今後、寮費の値上げを検討していかなければならない状況である。

(男子寮)

道の家 13名入寮

他学年・他学科で交流を持ちながら寮生活をしている。また男子寮の管理は学校でないため寮生と本校職員が面談を行いながら道の家寮担当との連携を図った。

男子寮についても Wi-Fi 環境の充実を図り3月には少し改善されているか、今後まだまだ問題点もあり、今後「道の家」と改善方法を検討していく。

11) 開校15周年に向けての準備作業

コロナ禍のため10年の節目も式典を実施できなかったが、15周年に向けての計画を考えていく予定。